

すべての子どもたちの未来を拓くキャリア教育とは

— 小・中学生の勤労観・職業観を含む生き方についての意識調査より —

未来を生きる子どもたちの「勤労観・職業観」の意識を知ることは、教育活動の充実のために必要なことである。そして子どもたちが「生きる力」を身につけ、めまぐるしい社会の変化に流されることなく、自立していくことが今の教育に強く求められている。

本研究では、子どもたちと教職員の「勤労観・職業観」に関する意識の実態を分析し、「生きる力」と「勤労観・職業観」の関係を考えた。この『意識調査』では、調査項目をできる限り基本的なものに絞り実施した。そして、その結果を報告すると共に、すべての子どもたちの未来を拓くキャリア教育の進め方を示した。

目 次

はじめに……………	1	第3章 キャリア教育を進めるにあたって	
第1章 キャリア教育をめぐる		第1節 育てたい力と課題	
第1節 今なぜキャリア教育なのか		(1) 夢の実現に向けてみえてきたもの ……	21
(1) なぜキャリア教育が必要なのか……………	1	(2) 「生き方探究教育」で育てたい力 ……	23
(2) 「生き方を考え、生きる力をはぐくむ教育」		(3) 「5つの領域と17の力」から	
をめぐる京都市の取組 ……	4	みえてきたもの ……	26
(3) 職業観・勤労観を育むための		第2節 すべての子どもたちの未来を拓く	
学習プログラムの枠組み (例) ……	7	キャリア教育を進めるにあたって ……	28
第2節 調査研究の概要		おわりに……………	30
(1) 調査の構造および設問の構成 ……	8	付表 ……	31
(2) 調査実施の概要 ……	9	1. 職業観・勤労観を育む	
第2章 勤労観・職業観を含む生き方について		学習プログラムの枠組み(例)	
第1節 教職員の意識調査より		2. 基礎集計表 (子どもたちの意識調査)	
(1) キャリア教育に関する意識 ……	10	3. 基礎集計表 (教職員の意識調査)	
(2) キャリア教育実施に向けての意識 ……	12	4. 教職員の意識調査設問紙	
第2節 子どもたちの意識調査より		5. 子どもたちの意識調査設問紙	
(1) 勤労観・職業観を育むための		6. 生き方を考え、生きる力をはぐくむ	
領域・能力に関わる意識 ……	15	キャリア教育の学習プログラムの枠組み (例)	
(2) キャリア形成に関する意識 ……	20		

<研究担当> 巻野 恭明 (京都市総合教育センター研究課研究員)

<研究調査協力校>

京都市立鳳徳小学校	京都市立楽只小学校	京都市立新町小学校
京都市立朱雀第二小学校	京都市立洛央小学校	京都市立南大内小学校
京都市立山王小学校	京都市立祥豊小学校	京都市立岩倉北小学校
京都市立静原小学校	京都市立第三錦林小学校	京都市立養正小学校
京都市立東山小学校	京都市立一橋小学校	京都市立音羽小学校
京都市立小野小学校	京都市立京北第一小学校	京都市立南太秦小学校
京都市立西京極西小学校	京都市立川岡小学校	京都市立嵐山東小学校
京都市立竹の里小学校	京都市立稲荷小学校	京都市立桃山南小学校
京都市立池田東小学校	京都市立石田小学校	京都市立二の丸北小学校
京都市立西賀茂中学校	京都市立旭丘中学校	京都市立小野郷中学校
京都市立烏丸中学校	京都市立二条中学校	京都市立朱雀中学校
京都市立京都御池中学校	京都市立成徳中学校	京都市立九条中学校
京都市立高野中学校	京都市立大原中学校	京都市立洛東中学校
京都市立大宅中学校	京都市立西院中学校	京都市立大原野中学校
京都市立深草中学校	京都市立桃陵中学校	

はじめに

高度経済成長期やバブル期には、多くの企業が大きな利益を得ることができた。就職先も容易に選ぶことができた。しかし、社会がめまぐるしく変化している今、自らの将来展望を持たず、とりあえず進学・就職といった目的意識の希薄な子どもたちが増えている。そして、子どもたちは将来どう生きていけばよいか迷っている。

また、子どもたちは、「やってみたいな」「不思議だな」など好奇心が旺盛である。このことは、大人になってから生きていくために非常に重要なことである。子どもたちが、いろいろな勉強をし、好きなスポーツをおこない、やりがいのある仕事につくためには、できるだけ早い時期からいろいろなことを学習し、経験し、体験をすることが重要であると考えられる。

村上龍の『13歳のハローワーク』には、「いい学校に行き、いい会社や官公庁に入れば安心という時代は終わろうとしている。それでも、多くの学校の先生や親は『勉強していい学校に行き、いい会社に入りなさい』というと思います。勉強していい学校に行き、いい会社に入るという生き方がすべてだったので、そのほかの生き方がわからないのです」(1)と書かれている。このことは、子どもだけでなく大人たちも、社会のめまぐるしい変化に対応できず、将来設計を描きにくくなっていることを示している。子どもたちに「何が好きか」「何に向いているのか」などを考えさせることが重要である。そして、好奇心を持ち「生きる力」を身につけ、社会のめまぐるしい変化に流されることなく、様々な問題に対応できる、社会人になるべく、とりわけ確かな「勤労観と職業観」を育てることが大切である。

「キャリア教育」については、教育関係者の間においても、必ずしも共通理解はなされていない。また、学校での進路指導では、どうしても子どもたち一人一人の「出口にかかる課題」が中心になりがちであり、「生きること」や「働くこと」の指導まで踏み込めていないと思われる。そこで「キャリア教育」を推進していくには、平成16年に出された『キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書』および、『学習指導要領』の趣旨および本市『指導の重点』等の指摘をふまえ、子どもたちが、自らの生き方を見すえた進路選択や将来設計ができるようにしていくことが必要である。

本研究では、小・中学校の児童・生徒および教職員を対象に「勤労観・職業観」に関する意識の現状を調査によって捉えることにした。子どもたちの「生きる力」と「勤労観・職業観」の関係を考えながら、キャリア教育を進めるにあたり何が必要なのかについて提案したい。

第1章 キャリア教育をめぐって

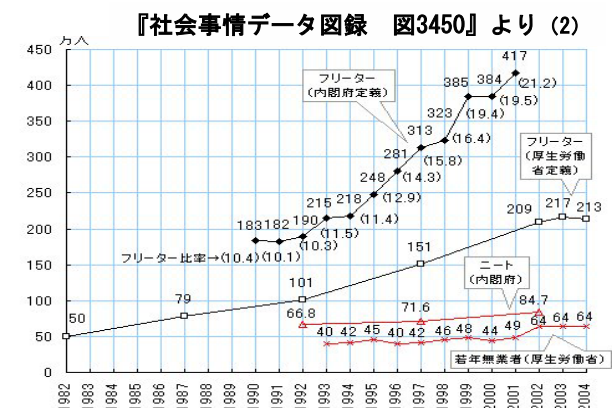
第1節 今なぜキャリア教育なのか

(1) なぜキャリア教育が必要なのか

①今キャリア教育が求められる背景

今日、少子高齢社会が到来し、社会・産業・経済の構造的変化や雇用の多様化・流動化等を背景として、将来への不透明さが増している。また子どもたちの進路をめぐる環境は大きく変化し、全国的にニート・フリーターが増え続けている。(図1-1) (2)

図1-1 ニート・フリーター数の推移



厚生労働省『平成17年度版 労働経済白書・労働経済の分析』(3)によると15歳から34歳までの労働力人口のうち、ニートは64万人、フリーターは213万人にも及んでいる。

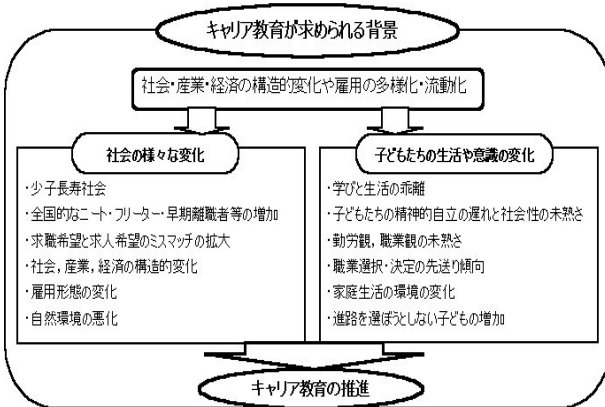
その背景には、経済のグローバル化により、激しい競争を強いられる中小・零細企業等における、合理化により、コスト削減のために、海外に製造の拠点を移すなど、企業の構造的な変化がある。また、職業人に求められる資質や能力も大きく変化し、企業としては即戦力を求める傾向がある。さらに、中途採用・外部委託、正社員からアルバイト等への雇用形態の変化がある。

最近マスコミでよく報道されている「2007年問題」と呼ばれている「団塊の世代」の人々の定年退職にともない、一時的には求人数が増加することも予想される。しかし、終身雇用や年功序列型

賃金に象徴される従来型の雇用形態が見直され、若者にとって、将来の生活や自己の生き方を描くことが難しくなっている。

また、本市教育委員会「『生き方探究教育』キャリア教育京都市スタンダード(試案)」(以下 生き方探究教育とする)の中では、子どもたちの成長・発達について、「働くことへの関心、意欲、目的意識、責任感など、勤労観・職業観の未熟さ、コミュニケーション能力、マナー等、職業人としての基礎的資質・能力の低下等が産業界からも指摘されている。身体的には早熟しているにもかかわらず精神的・社会的自立が遅れ、適切な人間関係を築くことができないこと(中略)その背景には、幼少期からの遊びの変化や、様々な体験・他者との交流の場の減少、価値観や生き方の多様化等があると考えられる。(中略)『学びと生活の乖離』が学校教育のあり方を見直す上での大きな課題となっている」(4)と示している。少子化や家庭の経済的ゆとりの増大や高学歴志向等を背景に、大学等への進学率が著しく上昇してきた。また、若者が職業について考えたり、選択・決定したりすることを先送りする傾向が強くなり、進学も就職もしようとしないう若者や、目的意識が薄くとりあえず進学する若者が増加している。(図1-2)

図1-2 今なぜキャリア教育なのか
文部科学省『キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書』(5)を参考に作成



こうした社会では、社会人・職業人として自立し、社会がいかに変化しようとも、確たる意志で進路選択・将来設計をおこなうことが重要だと考える。

社会のめまぐるしい変化の中で、力強く生きていくために、子どもたちが「生き方」を考え、「生きる力」を身につけ、子どもたちが直面する様々な課題に対応し、自立していくことができるようにするキャリア教育の推進が強く求められる。

②キャリア教育の定義

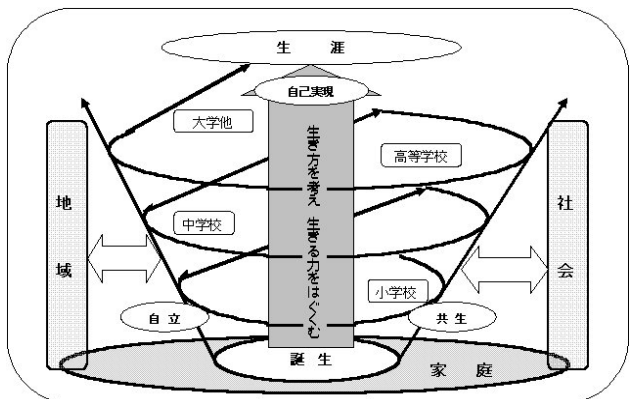
「キャリア教育」とは、文部科学省『キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書』(以下 協力者会議報告書とする)においては、『児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度を育てる教育』にとらえ、端的に言えば『児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てる教育』(6)であると定義づけている。

また中央教育審議会答申『初等中等教育と高等教育との接続の改善について』(以下 接続答申とする)では「望ましい職業観・勤労観および職業に関する知識や技能を身につけさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育」(7)としている。

「キャリア」とは何か、解釈・意味づけは非常に多様であり、時代とともに変わってきている。最近では、個々の人のたどる行路や足跡、経歴として用いられる。これは「人の生きてきた道であり、これから生きる道」と言い表せる。言い換えれば「人の生き方」だと考える。

「キャリア教育」は、個に応じた指導を徹底し、自己の生き方を考え、共に学び高めあい、自己実現を目指す教育と考える。人として「生きる」ことや、「働く」ことを、どのように考え、どう意味づけていくのか、自己の生き方や、自らの将来を見通す中で考えさせ、勤労観・職業観を育てる教育と言える。具体的には、自分自身を見つめ「自分の夢」をつくることにより、自己の良さや可能性などを気づかせ、自己の将来の「夢」をもたせその実現のために何を考え、何をなすべきかを考えさせることが重要である。また、他者についても関心を持ち、自己の進路選択・決定やさまざまな経験を通して、考えさせることも大切である。そこで、キャリア教育を「生き方を考え、生きる力をはぐくむ教育」と捉える。(図1-3)

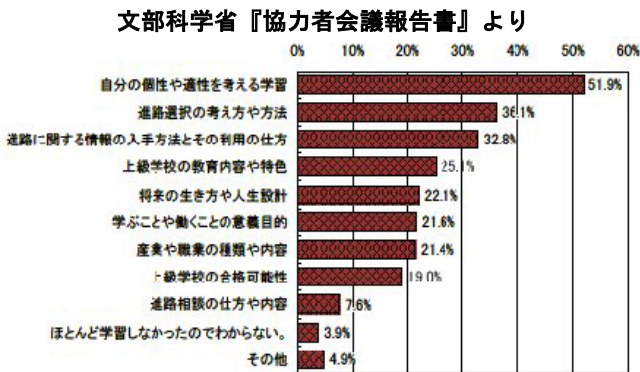
図1-3 キャリア教育のイメージ図



③キャリア教育の意義

キャリア教育では、子どもたち一人一人のキャリア発達や個としての自立を促す視点に立って、将来の生き方を考え、さまざまな学習や活動の中で身につけた能力・態度をどのように活かすか、また、よりよい人生を営むために、自らが生きる力をどのように身につけるかを考えさせることが大切である。文部科学省『協力者会議報告書資料』(8) (図1-4)では、中学生は、在学中に指導してほしい事柄について、「自分の個性や適性を考える学習」が51.9%「進路選択の考え方や方法」が36.1%であった。また「将来の生き方や人生設計」が22.1%「学ぶことや働くことの意義目的」が21.6%と低く、将来設計や働くことに関する事柄を指導してほしいと望んでいる。

図1-4 中学校在学中に指導してほしい事柄(8)



『協力者会議報告書』において、「キャリア教育は、一人一人の発達や自立を促す視点から、従来の教育の在り方を幅広く見直し、改革していくための理念と方向性を示すものである。さらに、子どもたちの発達段階や発達課題の達成と深く関わりながら段階を追って発達していくことを踏まえ、子どもたちの成長・発達を促す視点に立った取組を積極的に進めるものである。そして、子どもたちのキャリア発達を支援する観点に立って、各領域の諸活動を計画的、組織的に実施することができるよう、各学校が教育課程編成の在り方を見直していくことである」(9)とキャリア教育の意義を示している。以上の内容を十分に理解して、キャリア教育を進めることが大切だと考える。

大人になれば、いろいろな事に、興味や関心などが自然に湧き出してくるものではない。いろいろな経験やかかわりがあったはじめて、興味や関心が出てくる。例えば、実際に柔道を見たことも、したこともない子どもが、柔道に興味を持ち、柔道をやってみようとは思わない。このことは学習することや職業につくことにおいても同様であ

る。社会や英語などの教科に対する興味も、学校の授業などで情報を得て、はじめて興味や関心が促進されると考える。そのためには、子どもたちが個々の発達段階に応じて、各領域の関わる諸活動を計画的、継続的に取り組むことが大切であり、キャリア教育においては、その上にたつて、「生き方を考え、生きる力をはぐくむ」ことに視点を置いた指導が重要となる。そして、子どもたちが、人と人のつながり、家庭、地域、社会との関わりを大切にしながら、自分の良さを知り、自分を好きになり、前向きに生きていける教育活動を推進することが必要である。

④キャリア教育と進路指導

中央教育審議会の『接続答申』では、「キャリア教育は『学校と社会及び学校間の円滑な接続を図るため』のものであり、最終的な目標は『主体的に進路を選択する意欲・能力や態度』を育成することであり、本来の進路指導と同様である」(10)としている。

これまでの進路指導は、社会や個人が指向する方向に合わせながら結果的に、高度経済成長期・バブル期に高学歴社会を生み出し、大学等への進学率の上昇に拍車をかけてきた。その中で、本来の進路指導の姿とは、離れた学業成績による「選別」に重きが置かれてきた。そして、進学や就職といった出口指導にかたよった活動となり、職業意識、将来展望などについての指導が不足していた。そのため、進路指導は中学校・高等学校の卒業時におこなわれるものと誤解されてきた。

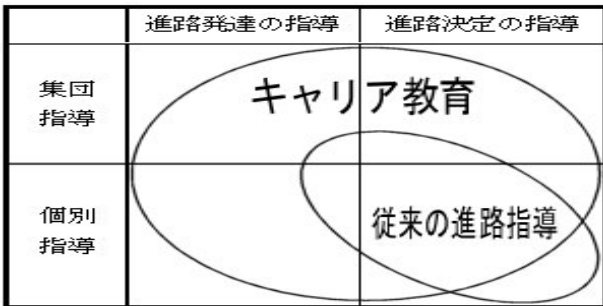
進路指導で目指す「勤労観・職業観」の育成は、様々な学習や経験・体験を通して得られるものである。しかし、単に学習や経験・体験をさせればよいものではない。学習や経験・体験さえさせれば、何かがつかめるというものではなく、個々の課題に照らして目標を設定し、その達成に向けた様々な学習や活動を、創意工夫することが必要である。

1996年中央教育審議会『21世紀を展望した我が国の教育の在り方について』では「『生きる力』の育成を基本とし、知識を一方向的に教え込むことになりがちであった教育から、子供たちが自ら学び自ら考える教育への転換を目指す。そして、知・徳・体のバランスのとれた教育を展開し、豊かな人間性とたくましい体をはぐくんでいく」(11)と述べられ、「生きる力」の概念が取り上げられた。そして、その後の中央教育審議会の答申や学習指

導要領に登場する。

進路指導は、自己の生き方を考え、目的意識を持ち、自分の思いと責任で進路選択・決定する意欲や態度を身につけさせる指導・援助である。進路指導において「勤労観・職業観」の育成は、そのねらいの中核の一つであり、キャリア教育においても、重要であるとする。その意味からも、進路指導はキャリア教育の中核をなすものであると言える。(図1-5)(12)

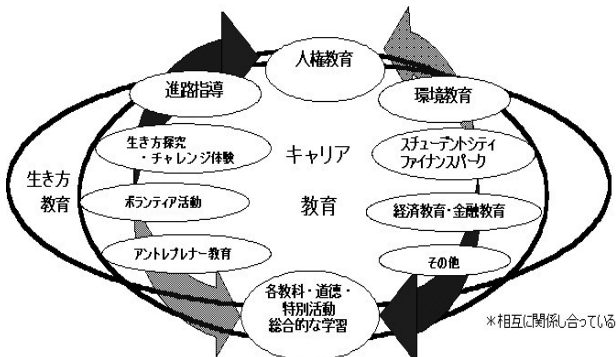
図1-5 キャリア教育と進路指導の関係
文部科学省『協力者会議報告書』より作成(12)



また、三村隆男は、「キャリア教育、生き方教育、進路指導の関係は、進路指導を中核とするキャリア教育があり、キャリア教育を中核とする生き方教育がある」(13)と述べている。

このように、キャリア教育は、「生き方を考え、生きる力をはぐくむ」ことに視点を置き、自己の生き方を考え、意欲・能力や態度を育成する教育である。この点からも「生き方教育」と重なる部分が多いと考える。またキャリア教育は「望ましい人間関係の形成(確立)」であり、各教科・道徳や学校での教育活動すべての取組で育成してきた「能力・態度」も重なる部分が多いと考える。(図1-6)

図1-6 キャリア教育の全体イメージ



(2) 「生き方を考え、生きる力をはぐくむ教育」をめぐる京都市の取組

前項でも述べたように、社会のめまぐるしい変化の中、子どもたちの進路をめぐる環境は大きく

変化している。このような中で「図1-1(P.1)」で示されているように、全国的には、ニート・フリーターは相変わらず増え続けている。

しかし、『生き方探究教育』では、「本市においては、様々な校種にわたる地道な教育実践を積み重ねの結果、伏見工業高等学校や洛陽工業高等学校の就職志願者が3年連続100%を達成し、中学校・高等学校卒業組の『無業者』も減少してきている」(14)と述べている。

平成17年度本市教育委員会『指導の重点』には、「主体的に進路を切り拓いていく意欲・態度や職業観・勤労観を家庭とともに育成し、自らの生き方を見すえた主体的な進路選択や将来設計ができるよう企業や大学等との連携を図りながら、各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間の取組を関連つけた体系的な取組を展開する」(15)と述べている。

本市では、21世紀のめまぐるしく変化する社会の中で力強く生きていくために、学校におけるあらゆる教育活動を通して、子どもたちが自らの生き方を主体的に選択・決定し、よりよく生きようとする能力、態度を育ててきた。そして、社会で共生・自立をしながら生きていけるように取り組んできた。

キャリア教育は、個々の課題を見直すことから始め、教育の場が自己実現の場になり、自立支援が始まる場と考えられる。この視点から見ると本市が、以前より各学校において取り組んできた人権教育は、重なるところが多いと考える。

本市では、長年にわたり同和問題をはじめとするすべての人権問題の解決を願って、人権教育の実践を進めてきた。すべての子どもたちに「生きる力」を高め、基礎・基本を大切に、確かな学力を身につけさせ進路保障を図り、豊かな人権感覚を育て、実践を行ってきた。そして、子どもたちがたくましく生きぬくために、いかに社会がめまぐるしく変化しようと、それに対応できる確かな学力をつけさせてきた。また、自らで判断し実践する力を身につけることに重きを置き、子どもたちが主体性を持って学習や生活を行い、自ら学びとる姿勢をつくることに取り組んできた。

本市がこれまで進めてきた教育の基本理念は、「徹底して一人一人を大切にする教育」を一貫して進めることである。個に応じたきめ細かな学習指導を通して、確かな学力を身につけさせ、すべての子どもたちに進路保障を図ることである。平成17年度本市教育委員会『指導の重点』には、「『画

一的な平等』から『個』を尊重する教育への転換は、こうした子どもたちの今日的な課題への確に対応した変革を求めるものである。一人一人の子どもたちを徹底的に大切にす本市教育の豊かな伝統のもと、個に応じた指導方法と指導体制を確立するなかで、基礎的・基本的な内容はもとより『確かな学力』を身につけさせ、進路の保障を図らなければならない(16)と述べている。

また「各校においては、常に目の前の子どもの実態から出発し、その実態を生み出している背景の理解のうえに立って、そうした子どもたちに焦点を当て、その主体的努力を引き出し、自己実現に向け自立を支援していかねばならない(17)とも述べている。本市が一貫して「個の尊重」を目指して取り組んできた人権教育は、「画一的な平等から『個』の尊重へ」の実現にほかならない。このことは、人や社会と共に生き、個として自立し、自己実現をめざす、キャリア教育の視点に立った教育に重なり、人権教育を支えている部分とも多く重なっていると考える。

各学校においては、これら基本理念達成のために子どもたちの人権意識を深め、子どもたちの発達を支援する観点に立って、教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間などあらゆる教育活動を通して、基礎・基本をしっかりと身につけさせてきた。そして、各学校が創意工夫した教育活動を展開し、子どもたち一人一人が自らのよさや可能性を發揮しながら自己実現をできるように取り組んできた。

これらのことから、キャリア教育は新たに学校において取り組むべき活動ではなく、これまでの教育活動にキャリア教育の視点に立った指導を加味することにほかならない。

ここで、これまでに本市が取り組んできた、キャリア教育の視点をふくんだ「生き方を考え、生きる力をはぐくむ」学習の取組例を紹介する。

まず、京都市立小学校では、総合的な学習の時間において「自ら学び、自ら考え、よりよく問題解決する資質や能力」「学び方やものの考え方を身につけ、自己の生き方を考えることができる力」など幅広い学力の育成を目指してきた。

京都市立修学院小学校では、総合的な学習の時間を「きらら学習」(写真1-1・1-2)として取り組んできた。子どもたちが地域に出て、実際の店

写真1-1 きらら学習



や企業を訪ね、仕事についての疑問や品物の流通などについて学び、また地域の文化・歴史を調べる学習を行っている。

「歴史的にも自然的にも恵まれた地域素材に焦点を当て、そこに住む人々や働く人々とふれあい、関わり合うことを大切にして、感動ある体験・心のあたたまるふれあい活動を推進する。児童一人一人が心の豊かさを感じ、地域を愛し、人を大切にする心を育てていきたい」「豊かな人間性を養う情報活用能力を高めることにより、自ら問題解決をし、自分の生き方を考える力をつける(18)を目標にしている。

写真1-2 きらら学習



そして、この学習で得た成果を地域に発信することで、地域の方と交流し地域の歴史・文化・ひと・自然・福祉関係などを再発見する活動を行っている。この学習を通して、コミュニケーション能力・情報活用能力および豊かな人権感覚を養うなど、育てたい力の育成に努めている。総合的な学習の時間の全体計画を共有化し、教科との関連を図りながら、一人一人に行き届いた計画的な指導の実践をおこなっている。

また、京都市立第三錦林小学校では、総合的な学習の時間を活用した「ふれあい学習」の中で、人権問題についての学習として、「京都人権ゆかりの地」をたずねる取組がおこなわれている。

「京都における『人権ゆかりの地』を訪ね、先人の人権に対する熱い思いについて考え、自らの生き方に結びつける」ことを、ねらいとしている。そして、育てたい力を「京都における『人権ゆかりの地』の学習を通して、京都を人権の視点でとらえ、それらを守り続けてきた人々の生き方から学ぶことができる子ども(19)と定め、人権問題と自分の考え方や生き方に結びつけている。

写真1-3 ふれあい学習「人権ゆかりの地をたずねて」



そのほか、車椅子体験などを通して、障害のある人の願いを知り、障害のある人とともに生きる社会を考えさせる取組などもおこなっている。

さらに、各学校では、総合的な学習の時間や生活科や社会科などの授業においても、地域で様々

な仕事や役割を担っている人の話を聞いたり、実際の仕事や作業を体験したりする学習などキャリア教育の視点に立った、数多くの学習をおこなっている。

京都市立中学校では、自らが積極的に意欲を持って活動し、人権意識を深め、発達を支援する観点に立った取組がおこなわれている。各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間などあらゆる教育活動を通して、基礎・基本をしっかりと身につけさせ、豊かな人権感覚と確かな学力を身につけさせ進路保障を図ってきた。

平成12年度より全市中学校において「生き方探究・チャレンジ体験推進事業」（写真1-4・1-5）が始まった。京都市教育委員会地域教育専門主事室『京都発地域教育のすすめ』には「21世紀を担う中学生が自分の興味・関心に応じたさまざまな社会体験活動を通して、生徒が自分のあり方や生き方を考えたり、他の人々に対する感謝の心や思いやりの心を育んだりするとともに、地域の人々とのふれあいや結び付きを深めたことにより、地域の子は地域で育てるといふ地域の熱い思いを育んだりすることができるような取組です」（20）と

写真1-4 生き方探究・チャレンジ体験



写真1-5 生き方探究・チャレンジ体験



目的が書かれている。

体験の場としては、地域を中心とした各事業所などの協力を得て、京都市立中学校・総合養護

学校の生徒が、日頃経験できない職場体験などを3～5日間行っている。中学校2年生で職場体験をおこなうことが多く、平成16年度には、約13000人の生徒が参加した。単にこの事業が職場体験をするだけに終わることなく、子どもたちの興味や関心に応じた社会体験学習とともに、人権感覚の育成にも力を注いでいる。

体験学習を終えた子どもたちの感想としては、京都市教育委員会地域教育専門主事室『平成16年度生き方探究・チャレンジ体験推進事業報告書』（21）によると、表1-1のような結果が出ている。

「事業所の方々や地域の人たちとのふれあい

表1-1 生き方探究・チャレンジ体験アンケート結果
京都市教育委員会 地域教育専門主事室
『平成16年度生き方探究・チャレンジ体験推進事業報告書』（21）

事業所の方々や地域の人たちとふれあいができましたか	
よくふれあうことができた	48.3%
まあふれあうことができた	45.5%
あまりふえあえなかった	5.7%
まったくふれあえなかった	0.6%
無答	0%
将来に向けてよい経験となりましたか	
大変良い経験になった	57.4%
ある程度よい経験になった	39.4%
あまりよい経験にならなかった	2.4%
まったくよい経験にならなかった	0.4%
無答	0.4%

とができた」「まあふれあうことができた」が93.7%と多い。また「将来に向けてよい経験となりましたか」の設問に対しても「大変よい経験になった」「ある程度よい経験になった」が96.8%と多い。

京都市立高等学校においては、勤労観・職業観の育成を含め、自己の進路を主体的に切り拓いていく意欲・態度を身につけさせる取組として、インターンシップをおこなっている。

総合養護学校では、京都市立総合養護学校版デュアルシステム研究会発行の『デュアル通信』において、「働きながら学ぶ100%の企業就職を目指して、はじめた京都市立総合養護学校版職業学科デュアルシステム(企業協力型長期企業実習)は、企業と学校とのパートナーシップのもとで、職業人として人材育成をおこなう進路指導システムです。在学中から長期の職業訓練を通して、企業が必要とする実践的な技能や技術、知識を身につけ、卒業後、即戦力となる人材の育成をめざします」（22）と述べている。卒業後もその企業に就職することも可能

としていくことを目指し、個に応じたキャリア教育の視点に立った取組をおこなっている。

写真1-6 デュアルシステムによる職場体験学習



(写真1-6)

以上のような取組例のほかにも、本市では、子どもたちを主体とした学習をさらに充実させ、豊かな人権感覚をはぐくみ、確かな学力をつけ、進路保障を図る取組の推進を進めている。また、「花背山の家」での野外活動・アントレプレナー教育・環境教育・ボランティア活動など、実社会や大自

然と関わる学習を事前・事後学習も含めた一連の流れのもとに充実した指導をおこなっている。

このように、各学校においてすべての教育活動を通し、勤労観・職業観を育成し、キャリア教育の視点をふくんだ「生き方を考え、生きる力をはぐくむ」様々な取組をおこなっているが、今後さらにキャリア教育を充実させるために、今までの取組に関する評価を明らかにし、今後何をすればいいのか、どう取り組めばいいのかなど、これから取り組むべき課題を考える必要がある。

(3) 職業観・勤労観を育むための

学習プログラムの枠組み(例)

前項で述べたように、子どもたちが社会のめまぐるしい変化の中、どのような状況に置かれているのかを知り、自己の勤労観・職業観を持つことが強く求められている。また、勤労観・職業観の形成には、子どもたち自身の努力も必要だが、それと共に大人たちの援助と指導が大切であると考ええる。

そこで、学校段階での望ましい勤労観・職業観を形成する取組が求められるなか、国立教育政策研究所生徒指導研究センターでは、子どもたちの各発達段階で育成すべき能力について考えた。その内容は『児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について』の中で「『職業教育・進路指導に関する基礎的研究』(平成8・9年度)において『4つの能力を発達させる進路指導活動モデル』では、能力領域を①キャリア設計能力、②キャリア情報探索・活用能力、③意思決定能力、④人間関係能力の4つに分類し、小・中・高等学校の各段階で育てるべき具体的な能力が示されている」(23)と述べている。

『協力者会議報告書』においては、学校段階における職業的発達課題について、次の表1-2(24)のように考えられた。

表1-2 学校段階別に見た職業的発達段階、発達課題
協力者会議報告書より(24)
(国立教育政策研究所生徒指導研究センター作成)

小学校段階	中学校段階	高等学校段階
＜職業的(進路)発達段階＞		
進路の探索・選択にかかる基盤形成の時期	現実的探索と暫定的選択の時期	現実的探索・試行と社会的移行準備の時期
＜職業的(進路)発達課題＞		
<ul style="list-style-type: none"> 自己及び他者への積極的関心の形成・発展 身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上 夢や希望、憧れる自己イメージの獲得 勤労を重んじ目標に向かって努力する態度 	<ul style="list-style-type: none"> 肯定的自己理解と自己有用感の獲得 興味・関心等に基づく職業観・勤労観の形成 進路計画の立案と暫定的選択 生き方や進路に関する現の形成美的探索 	<ul style="list-style-type: none"> 自己理解の深化と自己受容 選択基準としての職業観・勤労観の確立 将来設計の立案と社会的移行の準備 進路の現実吟味と試行的参加

また、新たに小・中・高等学校の各段階における職業的(進路)発達課題を検討・整理した。これらの課題達成との関連で、具体的に勤労観・職業観の形成に関連する能力を「人間関係形成能力」「情報活用能力」「将来設計能力」「意思決定能力」の4つの能力領域を定めた。続いて、それぞれを構成する能力を、各領域に2つずつ計8つの能力に整理された。(表1-3)

表1-3 職業的発達に関わる4領域8能力

国立教育政策研究所生徒指導研究センター「職業観・勤労観を育むための学習プログラムの枠組み(例)」より作成

職業観・勤労観を育むための領域・能力	4領域	8能力
	人間関係形成能力	自他の理解能力
		コミュニケーション能力
	情報活用能力	情報収集・探索能力
		職業理解能力
将来設計能力	役割把握・認識能力	
	計画実行能力	
意志決定能力	選択能力	
	課題解決能力	

そして、それぞれの段階において身につけることが期待される能力・態度を示した「勤労観・職業観を育むための学習プログラムの枠組み(例)」(以下「学習プログラム(例)」とする)が作成された。(巻末付表1)

しかし、この「学習プログラム(例)」は、あくまで一例であって、子どもたちの発達には個人差があることなどから、画一的に扱うことはできない。個々を4領域8能力の観点に照らし、子どもたちの発達を見ていくものである。各学校において、子どもたちが勤労観・職業観に関する能力・態度をどの程度育ったかを、評価したりする際の一つの参考とすることができる。

ある学年において、ある能力のみの伸長を図るのではなく全ての発達段階において、4領域8能力を総合的に発達させることを目指すものである。そして、進路決定時期には、現行の進路指導への対応も留意しながら、小・中・高等学校における取組が、計画的、組織的かつ系統的に推進されることを考え開発された。

第2節 調査研究の概要

そこで、今後キャリア教育を充実させるために、今までの取組を総括するとともに、キャリア教育を学校教育の中に位置づけるために、課題を明確にする目的で調査を実施した。

(1) 調査の構造および設問の構成

本研究は、「小・中学生の勤労観・職業観を含む生き方についての意識調査」をふまえて行われるものであり、調査研究のねらいと基本的な考え方は、次のとおりである。

《調査研究のねらい》

- ・子どもたちの「生き方」についての実態を把握する。
- ・実態の把握を通して、「生きる力」と「勤労観・職業観」の関係を考える。
- ・教職員のキャリア教育に関する意識実態を把握する。
- ・意識実態の把握を通して、キャリア教育への取組推進について考える。
- ・子どもたちの将来の夢の実現のために必要な育てたい力と課題を提示する。

《基本的な考え方》

- ・継続的に調査していくことも視野に入れ、調査内容はできるだけ基本的な項目とする。
- ・設問の選択肢は可能な限り量的あるいは頻度などとし、客観的に把握するように努める。
- ・子どもの成長の変化を把握するため、対象を小学校3年生、6年生、中学校3年生とする。
- ・中学校では、生き方探究・チャレンジ体験終了後の意識実態を把握できるように努める。
- ・教職員については全市的な傾向を見るため、対象を小学校・中学校教職員とする。

《調査の構造と設問の構成》

調査を通して明らかにしたいことは、教職員のキャリア教育に対する意識と子どもたちの勤労観・職業観を含む生き方についての意識実態についてである。

①教職員のキャリア教育についての意識調査（以下 教職員の意識調査とする）については大きく以下の2点で構成した。

- a キャリア教育に関する意識
- b キャリア教育実施に向けての意識

②子どもたちの勤労観・職業観を含む生き方についての意識調査（以下 子どもたちの意識調査）については、国立教育政策研究所生徒指導研究センター作成の「学習プログラム（例）」を参考に、次の4点（領域）で構成した。

- a 人間関係形成能力に関すること
- b 情報活用能力に関すること
- c 将来設計・探索能力に関すること
- d 意思決定能力に関すること

以上のような構成で、調査の全体を構想した。

①教職員についての意識調査

- (a) 「キャリア教育に関する意識」については、キャリア教育の浸透度を知るために以下の項目で構成した。
- ・内容を知っているか
 - ・推進されていることを知っているか
 - ・キャリア教育の必要性は
- (b) 「キャリア教育実施に向けての意識」については、キャリア教育の推進に向けて以下の項目で構成した。
- ・推進していくにはどの段階で実施することが適切なのか
 - ・内容は何が良いか
 - ・進めるとしたらどの教科・領域がよいか
 - ・推進する上で教職員に何が必要か
 - ・推進するにあたって望まれていることは
 - ・意見、質問、感想

②子どもたちについての意識調査

(a) 人間関係形成能力に関する項目については以下の項目で構成した。

「自他の理解」

- ・たくさんの友だちがいますか
- ・話し合いでは進んで発表しますか
- ・他者からのアドバイスを聞くか
- ・地域に興味があるか
- ・毎日の生活が楽しいか

「コミュニケーション」

- ・行ってみたい国がありますか
- ・家の人の仕事を知っていますか
- ・自分からあいさつしたり、話しかけたりするか
- ・みんなと仲よく遊べるか
- ・多くの国の人々と友だちになりたいか
- ・いろいろな国の言葉を話してみたいか
- ・地域行事やボランティア活動に参加しているか
- ・おおぜいの人といるのが好きか
- ・まわりの人に協力するか
- ・家族と話をするか
- ・家族と出かけることがあるか

(b) 情報活用能力に関する項目では、以下の項目で構成した。

「情報収集・探索」

- ・テレビや新聞などのニュースを見ているか
- ・流行や新しいものに興味があるか
- ・社会の出来事に疑問を持つか
- ・情報機器に興味があるか
- ・コンピュータなどで調べることができるか

「職業理解」

- ・家の仕事を知っているか
- ・知っている仕事の説明ができるか
- ・生き方探究・チャレンジ体験で職業理解がふくらんだか

(c) 将来設計・探索能力に関する項目では、以下の項目で構成した。

「役割把握・認識」

- ・仕事を選ぶときの基準は何か
- ・今の学校卒業後どこまで勉強したいか
- ・家で勉強をしているか
- ・勉強していることが将来役に立つか

「計画実行」

- ・将来の夢を持っているか
- ・何事にも計画を立て、実行しているか
- ・興味があることには熱中するか
- ・将来どのような仕事につきたいか
- ・お金がたくさん入ったらどうするか
- ・夢の実現のために努力しているか

(d) 意思決定能力に関する項目では、以下の項目で構成した。

「選択」

- ・何事にも1人で決めることができるか
- ・仕事を選ぶとき何をヒントにするか
- ・将来の仕事について心配なことがあるか

「課題解決」

- ・失敗したらすぐにあきらめる方か
- ・物作りや調べることが好きか
- ・生活で「不思議だな」「すごいな」と思うことがあるか
- ・悩み・不安などを誰かに相談するか

(2) 調査実施の概要

前項の設問の構造と、巻末付表に示した教職員に11問（付表4）、子どもたちに41問（付表5）の調査問題を作成し、そのデータをもとに研究を進めた。調査の概要は次のとおりである。

① 調査対象

- ・小学校3年生、同6年生および中学校3年生
- ・京都市立小学校・中学校

総合養護学校（小・中学部）教職員

② 調査協力校および調査人数

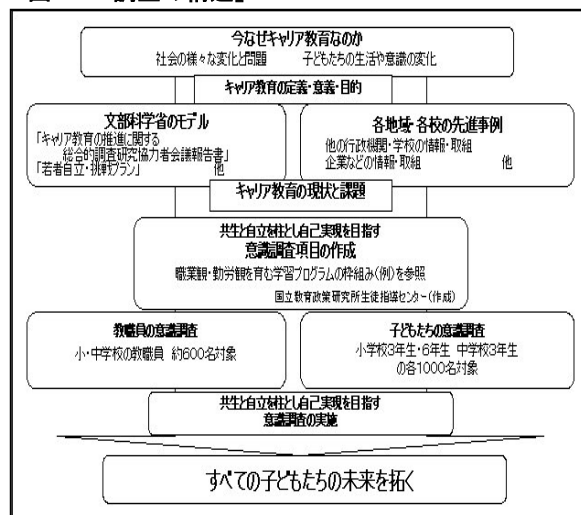
子どもたちの調査については、京都市地域類型⁽²⁵⁾に基づき類型ごとの比率に即して児童・生徒数を算出し、京都市立小学校27校、京都市立中学校17校で、各学年1000名程度の子どもたちを対象として実施を依頼した。教職員の意識調査については、全市小・中学校・総合養護学校（小・中学部）の各学校2～3名、約600名に依頼した。

③ 調査期間と方法

- ・平成17年7月11日～9月22日
- ・学級単位で学年一斉に実施
- ・教職員は期間中に適時実施

「調査の構造」は下の図1-6に示した。

図1-6 「調査の構造」



また、質問紙全体の設問項目およびデータは、巻末付表の基礎集計表（付表2・3）として示す。

④ 有効回答者数・回答割合および標本誤差

地域類型ごとの、有効回答者数および回答割合は、表1-6のとおりである。さらに調査精度をみるために、標本調査で用いられる数式⁽²⁶⁾によって、信頼度を95%として標本誤差を算出したところ、最大で小学校3年生の±2.8%（回答が最大の誤差をとる50%の場合において、47.2%から52.8%の範囲内にその誤差が収まるという意味）となり、おおむね満足できるものである。また、本市各学年の児童・生徒数は約11,000人なので、本調査の1%は110人として換算するこ

とができる。

表1-6 有効回答数と回答割合

	地域類型	地域	調査協力学校数	児童生徒数 比率	有効回答数	回答割合	
小学校 3年生	I	農山村	1校	2校	7人	1.7%	
	II		1校		13人		
	III	住宅①	6校	16校	271人	59.7%	
			住宅②		4校		205人
			住宅③		6校		237人
	IV	商業	3校	5校	105人	16.8%	
	V		2校		123人		
	VI	工業	2校	4校	98人	21.8%	
VII	1校		72人				
VIII	1校		92人				
合計			27校	100%	1223人	100%	
小学校 6年生	I	農山村	1校	2校	5人	2.8%	
	II		1校		26人		
	III	住宅①	6校	16校	249人	60.7%	
			住宅②		4校		189人
			住宅③		6校		244人
	IV	商業	3校	5校	101人	17.8%	
	V		2校		99人		
	VI	工業	2校	4校	88人	18.7%	
VII	1校		53人				
VIII	1校		69人				
合計			27校	100%	1123人	100%	
中学校 3年生	I	農山村	1校	2校	1人	1.2%	
	II		1校		15人		
	III	住宅①	5校	9校	449人	61.1%	
			住宅②		2校		180人
			住宅③		2校		193人
	IV	商業	1校	3校	58人	16.2%	
	V		2校		163人		
	VI	工業	1校	3校	90人	21.5%	
VII	0校		0人				
VIII	2校		203人				
合計			17校	100%	1352人	100%	

- (1) 村上龍他1名『13歳のハローワーク』幻冬舎 2003. 11 p. 6
 - (2) 本川裕『社会事情データ図録』2005. 7 図3450
 - (3) 厚生労働省『労働経済白書・労働経済の分析(平成17年版)』
 - (4) 京都市教育委員会『生き方探究教育 キャリア教育京都市スタンダード(試案)』2006. 2 p. 3
 - (5) 文部科学省『キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書』2004. 1.
 - (6) 前掲(5) p. 7
 - (7) 中央教育審議会『初等中等教育と高等教育との接続の改善について』1999. 12 第6章 第1節
 - (8) 前掲(5) 資料 p. 51
 - (9) 前掲(5) p. 8
 - (10) 前掲(6) 第6章 第1節
 - (11) 中央教育審議会『21世紀を展望した我が国の教育の在り方について』1996. 7
 - (12) 前掲(5) p. 15
 - (13) 三村隆夫『図解はじめる小学校キャリア教育』実業之日本社 2004. 11 p. 14
 - (14) 前掲(4) p. 3
 - (15) 京都市教育委員会『平成17年度 指導の重点』2005. 4 p. 6
 - (16) 前掲(15) p. 3
 - (17) 前掲(15) p. 16
 - (18) 京都市教育委員会『総合的な学習の時間』実践事例集『大好き きょうと』2005. 2 修学院小 pp. 180~181
 - (19) 前掲(7) 三錦小 pp. 164~165
 - (20) 京都市教育委員会地域教育専門主事室『京都発 地域教育のすすめ』2005. 8 p. 91
 - (21) 京都市教育委員会地域教育専門主事室『平成16年度生き方探究・チャレンジ体験推進事業報告書のまとめ』2005. 5 p. 15
 - (22) 京都市立総合養護学校版デュアルシステム研究会『デュアル通信』Vol. 1. 2 2005. 6
 - (23) 国立教育政策研究所生徒指導研究センター『児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について』2002. 11 p. 44
 - (24) 前掲(5) p. 9
 - (25) 京都市地域類型：京都市の対象地域についてある一定の標識や、特性に基づいて比較的同じような条件にある学校を単位地区としてまとめ類型化したもの。基礎資料となる
- 参考：京都市永松記念教育センター『京都市における地域類型教育調査のために 報告 471 2001』
- (26) 岩永雅也 他2名『社会調査の基礎』放送大学教育振興会 2001. 3 p. 75 標本誤差(E)の算出は次式による

$$E = |P - p| = 1.96 \sqrt{\frac{P(100 - P)}{n}}$$

P：母集団の統計値(%) p：標本の統計値(%) n：標本の規模

第2章 勤労観・職業観を含む生き方についての意識調査からみえてきたもの

本章では、「教職員の意識調査」と「子どもたちの意識調査」でみえてきたことを報告する。

第1節では、「教職員の意識調査」の結果を集計と教職員からの意見・要望・感想などを提示する。第2節では、「子どもたちの意識調査」の結果から、設問ごとに集計をおこなった。その後、子どもたちがどのような状態であるかを、関連ある項目でクロス集計をおこなった。

第1節 教職員の意識調査より

「教職員の意識調査」では、京都市立小学校・中学校（総合養護学校小学部・中学部を含む）を対象に、各学校から2~3名の教職員に調査を依頼した。その結果、479名（小学校316名、中学校163名）の教職員から回答をえることができた。

そして結果を「キャリア教育に関する意識」と「キャリア教育実施に向けての意識」の2つの観点からみている。

小学校教職員と中学校教職員を比較し、その後統計上、有意差の検定をおこなった。その結果を有意水準1%以内で有意差がある場合は(**)、5%以内の場合は(*)、有意差なしは(n. s.) と図に表示する。

(1) キャリア教育に関する意識

教職員の「キャリア教育に関する意識」についての意識調査は、最近キャリア教育をよく耳にするようになったが、果たして教職員がどの程度キャリア教育について知っているか。また、内容や意識の浸透度はどうかなどを知るために、5項目の設問からみている。

(a) 「キャリア教育の内容についてご存じですか」

図2-1 キャリア教育の内容についてご存じですか (*)

(*)はグラフ中の○で囲んだ回答の有意差検定の結果である
(以後のグラフ持同様である)

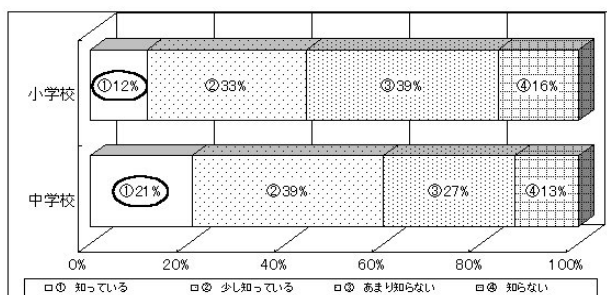


図2-1であきらかなように、キャリア教育の内容について「①知っている」と答えた比率は、中学校教職員の方が高いことがみられた。小学校と中学校の教職員で、「①知っている」と回答した格差は有意であった。

結果は「①知っている」が小学校では12%、中学校では21%であった。「②少し知っている」が小学校では33%、中学校では39%であった。しかし、小学校では「④知らない」が16%、「③あまり知らない」が39%であった。

この結果から、以下のことがみえてきた。

- ・中学校の教職員の方が、小学校の教職員よりキャリア教育の内容を「知っている」と回答した割合が高い。
- ・小学校の教職員では55%が、キャリア教育について「あまり知らない」「知らない」と回答している。

以上のことは、中学校では、高校受験など進路指導に関わる機会が多いことからではないかと推測する。

(b)「文部科学省や各教育委員会がキャリア教育を推進していることを知っていますか」

図2-2 文部科学省や各教育委員会がキャリア教育を推進していることを知っていますか (*)

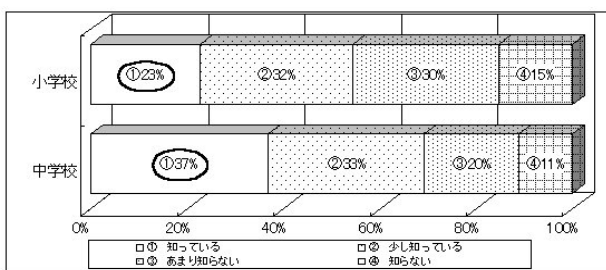


図2-2であきらかなように、キャリア教育の推進を「①知っている」と答えた比率は、中学校教職員の方が高いことがみられた。小学校と中学校の教職員で、「①知っている」と回答した格差は有意であった。

結果は「①知っている」が小学校で23%、中学校で37%であった。また「②少し知っている」が小学校で32%、中学校で33%であった。小学校では、「あまり知らない」が30%で「知らない」15%であった。

この結果から、以下のことがみえてきた。

- ・小学校の教職員では、キャリア教育の推進が進められていることを「知っている」「少し知っている」の割合が半数程度であった。
- ・中学校の教職員の方が小学校の教職員より、キャリア教育の推

進が進められていることを「知っている」と回答した割合が高い。

以上のことも、中学校では、高校受験など進路指導に関わる機会が多いことからであると推測する。また、学校現場では、まだまだキャリア教育が浸透していないと推測する。

(c)「今あなたは、キャリア教育が必要だと思いますか」

図2-3 今あなたは、キャリア教育が必要だと思いますか (*)

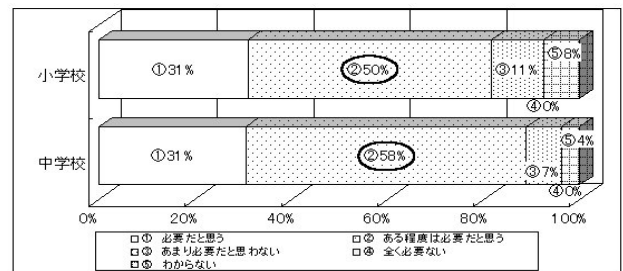


図2-3であきらかなように、キャリア教育が「①ある程度必要だと思う」と答えた比率は、中学校教職員の方が高いことがみられた。小学校と中学校の教職員で、「①ある程度必要だと思う」と回答した格差は有意であった。

結果は「①必要だと思う」が小学校、中学校ともに31%であった。「②ある程度必要だと思う」が小学校で50%、中学校で58%であった。しかし、小学校で19%、中学校で11%の教職員が「③あまり必要だと思わない」「④全く必要ない」「⑤わからない」と回答している。

この結果から、以下のことがみえてきた。

- ・小学校、中学校ともにキャリア教育が「必要だと思う」「ある程度必要だと思う」と回答している教職員の割合が高い。
- ・しかし「あまり必要だと思わない」「全く必要ない」と回答した教職員が小学校で11%、中学校で7%あった。

以上のことは、教職員の多くが、キャリア教育の必要性を感じている。しかし、図2-1でキャリア教育の内容をあまり知らないと回答した人が多く、単にキャリア教育の名前だけ、ニート対策のためのキャリア教育と考えている教職員が多いのではないかと推測する。

(d) (c)で「①必要だ」「②ある程度必要だ」と回答した教職員に、必要だと思われる理由を聞いたところ、①、②と回答した402名中188名の回答があった。その回答を、カテゴリ一別に分けて紹介する。

- ・ニートやフリーターがふえているから（72名）
- ・自分の夢を実現していくような教育や将来展望を持たせる教育が必要（56名）
- ・生きる力をつける（28名）
- ・職場体験学習など、働くことの大切さを身につける取り組みが必要（14名）
- ・子どもたちの目的意識のなさを感じる（9名）
- ・働く喜びやお金の大切さを学ぶ（6名）
- ・親も子どもも教師も何とかなるという風潮がある（3名）
- ・子どもたちは、今迷っている（1名）

この結果から、以下のことがみえてきた。

- ・「ニートやフリーターがふえているから」キャリア教育が必要だと回答した教職員が最も多い。
- ・続いて「自分の夢を実現していくような教育」が必要であると考えている教職員が多い。
- ・さらに、「生きる力をつける」と回答した教職員も28名おられた。

以上のことは、社会の現状や子どもたちの現状を、考えている教職員が多いと推測する。

(e) (c)で「③あまり必要だと思わない」「④全く必要ない」「⑤わからない」と回答した理由

表2-2 問い3で③④⑤と答えた理由

問い3で③④⑤と答えた理由	小学校	中学校
①キャリア教育より先にやるべき事がある	33人	10人
②キャリア教育は家庭でやるべきだ	4人	1人
③キャリア教育は難しすぎる	6人	3人
④キャリア教育の必要性を感じない	6人	0人
⑤その他	10人	4人
合計	59人	18人

表2-2のように「③あまり必要だと思わない」「④全く必要ない」「⑤わからない」と回答した小学校、中学校あわせると77人であった。その回答で「①キャリア教育より先にやるべき事がある」が43人と最も多く、「③キャリア教育は難しすぎる」が9人であった。その他の意見として、「キャリア教育が何か分からない」が14人であった。

この結果から、以下のことがみえてきた。

- ・③④⑤と回答されたなかで、「キャリア教育より先にすべきことがある」と回答された方の割合が最も高い。
- ・「キャリア教育が何か分からない」と回答が77名中14名であった。

以上のことは、学校では、キャリア教育の内容が、まだまだ浸透していないと推測する。

(2) キャリア教育実施に向けての意識

「キャリア教育実施に向けて、何が必要なのか」「どの段階から実施することが望ましいか」「キャリア教育を進めるにあたって、教科・領域、教職員にとって何が必要か」「望まれていることは」などの設問を6項目作成した。そして最後にキャリア教育推進にあたっての意見・要望・感想を聞き、全体として7項目からみえる。

(a) 「あなたは、キャリア教育を実施するとしたらどの時期からが適切だと思いますか」

図2-4 キャリア教育を実施するとしたらどの時期からが適切だと思いますか(*)

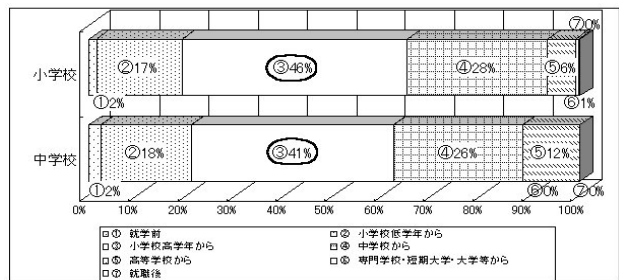


図2-4であきらかなように、キャリア教育を実施するとしたら「③小学校高学年から」と答えた比率は、小学校教職員の方が高いことがみられた。小学校と中学校の教職員で、「③小学校高学年から」と回答した格差は有意であった。

結果は「③小学校高学年から」が、小学校で46%、中学校で41%であった。そして「②小学校低学年から」が、小学校で17%、中学校で18%であった。また「④中学校から」が小学校で26%、中学校で28%であった。

この結果から、以下のことがみえてきた。

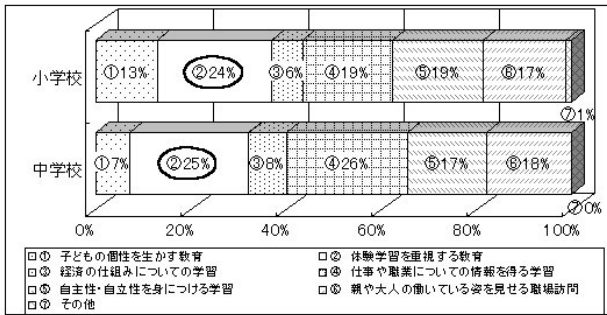
- ・小学校、中学校ともに、キャリア教育を実施時期としては、「小学校高学年から」からと回答した割合が最も高い。
- ・キャリア教育を実施時期としては「小学校段階」から実施することが望ましいという考えが小学校で63%、中学校で59%あった。

以上のことから、教職員のなかでは、「小学校段階」からキャリア教育を実施することが望ましいと考えられていることを推測する。

(b) 「あなたは、キャリア教育の内容はどのようなものがよいと思いますか」

図2-5であきらかなように、キャリア教育の内容で、「②体験学習を重視する教育」と答えた比率は、小学校と中学校の教職員では、有意な格差はみられなかった。

図2-5 キャリア教育の内容はどのようなものか
よいと思いますか(n. s.)



結果は、小学校では「②体験学習を重視する教育」が24%と最も多かった。中学校では「④仕事や職業についての情報を得る学習」が26%と多く、続いて「②体験学習を重視する教育」が25%であった。

この結果から、以下のことがみえてきた。

- ・小学校では「体験学習を重視する教育」との回答の割合が最も高い。
- ・中学校では「仕事や職業についての情報を得る学習」との回答が最も高く、続いて「体験学習を重視する教育」であった。

その他としては、「自分の個性・特性・適性などを知る学習内容が必要」「自分を知る学習が重要である」のような意見があった。

以上のことから、教職員のなかでは、「体験学習を重視する教育」「仕事や職業についての情報を得る学習」をさせることが重要だと考えられていると推測する。

- (c) 「あなたは、キャリア教育を進めるとしたらどの教科・領域がよいと思いますか」

図2-6 キャリア教育を進めるとしたら
どの教科・領域がよいと思いますか(n. s.)

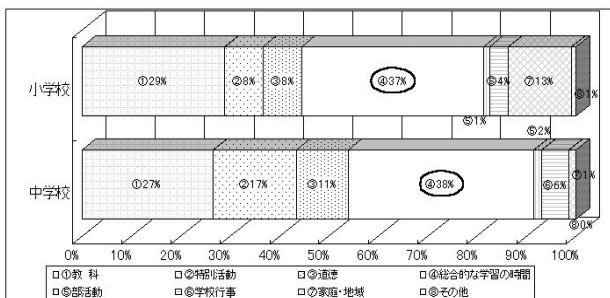


図2-6であきらかなように、キャリア教育を進めるとしたら、「④総合的な学習の時間」と答えた比率は、小学校と中学校の教職員で、有意な格差はみられなかった。

結果は「④総合的な学習の時間」が小学校で37%、中学校で38%と最も多かった。続いて「教科」が、小学校で29%、中学校で27%であった。また、小学校では「⑦家庭・地域」が13%、中学校では「②特別活動」が17%あった。

この結果から、以下のことがみえてきた。

- ・小学校、中学校ともに「総合的な学習の時間」で実施することがよいと、考えている教職員の割合が最も高い。
- ・続いて「教科」で実施できると考えている教職員も、小学校、中学校ともに割合が高い。

以上のことから、キャリア教育は「総合的な学習の時間」「教科」を進めるとよいとの回答が多く、すべての教育活動で進める必要があると認識している教職員が少ないと推測する。

- (d) 教科と答えた教職員で

「どの教科がよいと思いますか」

表2-3 どの教科がよいと思いますか

教科と答えられた中で、どの教科がよいと思いますか。(複数回答可)	小学校	中学校
小学校国語	4%	8%
小学校生活	11%	31%
小学校社会	33%	50%
小学校算数	2%	4%
小学校理科	3%	6%
小学校音楽	2%	5%
小学校図工	2%	7%
小学校体育	2%	4%
小学校家庭	11%	25%
小学校英語活動	5%	5%
中学校国語	2%	13%
中学校社会	34%	80%
中学校数学	1%	5%
中学校理科	2%	6%
中学校音楽	3%	6%
中学校美術	4%	8%
中学校保健体育	2%	0%
中学校技術家庭	23%	57%
中学校外国語	4%	10%

表2-3のように、小学校では、「中学校『社会科』」が34%と最も多く、続いて「小学校『社会科』」が33%であった。また、「中学校『技術家庭科』」が23%、「小学校『生活科』『家庭科』」がともに11%であった。中学校では、「中学校『社会科』」が80%と多く、続いて「中学校『技術家庭科』」が57%、「小学校『社会科』」が50%と続いた。

この結果から、以下のことがみえてきた。

- ・キャリア教育を進める教科として小学校・中学校ともに「社会科」と考える教職員の割合が最も高い。
- ・また、中学校ではキャリア教育を進める教科として「小学校家庭科」「中学校技術家庭科」割合も高い。

・さらに、中学校では31%が「小学校生活科」と回答している。その割合は、小学校より高い。

その他の意見としては「教科はキャリア教育のための教科では無い」「キャリア教育は必要ない」「単独の教科領域に含めることが可能なのか。そんなとらえ方ではキャリア教育は実践できない。すべてを進めることが必要」「特定の教科・領域にとらわれないことが大切である」などがあつた。

以上のことから、「生活・職業・仕事」などを考えたとき、教職員の意識には、後の「(g)キャリア教育について意見・要望・感想」の中に『『仕事』=『社会科』』との回答が数件あり、教職員のなかには、そのようにとらえていることがあると推測する。

(e)「あなたは、キャリア教育を推進する上で教職員に何が必要だと思いますか」

図2-7 キャリア教育を推進する上で教職員に何が必要だと思いますか(*)

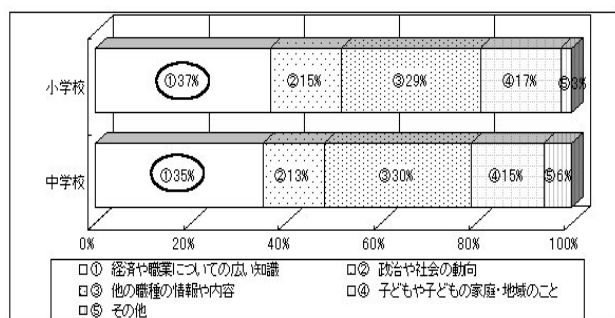


図2-7であきらかなように、キャリア教育を推進する上で「①経済や職業についての広い知識」と答えた比率は、小学校教職員の方が高いことがみられた。小学校と中学校の教職員で、「①経済や職業についての広い知識」と回答した格差は有意であった。

結果は「①経済や職業についての広い知識」が小学校で37%、中学校で35%であった。続いて「③他の職種の情報内容」が、小学校で29%、中学校で30%であった。

この結果から、以下のことがみえてきた。

- ・小学校、中学校ともに「経済や職業についての広い知識」が必要だと考えている教職員の割合が最も高い。
- ・続いて「他の職種の情報内容」と回答した割合も高い。

その他の意見としては「自分の生き方を知る」

「子どもたちのニーズを知る」「教職員の社会体験、教職員の職業観」「時間のゆとり、情熱」などがあつた。

以上のことから、教職員自身が「職業や経済」についてあまり知る機会がなかったのではないかと推測する。

(f)「あなたが、キャリア教育を推進するにあたって望まれる事は何でしょうか」

表2-4 キャリア教育を推進するにあたって望まれる事は何でしょうか 複数回答可

推進するにあたって望まれる事は	小学校	中学校
①キャリア教育の研修会や研修の機会	21%	18%
②キャリア教育の情報の提供	25%	20%
③情報や相談・指導をする担当場所	40%	48%
④企業への働きかけ	12%	11%
⑤その他	2%	3%

表2-4であきらかなように、キャリア教育の推進にあたり、「③情報提供や相談・指導をする担当場所」と答えた比率は、小学校教職員の方が高いことがみられた。小学校と中学校の教職員で、「③情報提供や相談・指導をする担当場所」と回答した格差は有意であった。

結果は「③キャリア教育の情報提供や相談・指導をするキャリア教育の担当場所」が小学校40%、中学校が48%と最も多かった。続いて「②キャリア教育の情報の提供」が小学校で28%、中学校で26%であった。また、「①研修会や研修の機会」が小学校で24%、中学校で23%であった。

この結果から、以下のことがみえてきた。

- ・キャリア教育についての「情報や相談・指導をする担当場所」を望まれている割合が最も高い。
- ・続いて、キャリア教育の「情報の提供」「研修会や研修の機会」などを望んでいる教職員の割合も高い。

以上のことから、学校現場では、まだまだキャリア教育についての情報が少ないのではないかと推測する。

(g)キャリア教育について意見・要望・感想をお書きください。

この設問では、回答総数479名（小学校316名、中学校163名）から129名の教職員から回答があつた。

その回答を、カテゴリー別に分けて紹介する。

- ・キャリア教育の情報の提供
情報提供をする部署の設置が必要 (42人)
 - ・キャリア教育の名前だけ知っている
キャリア教育がわからない, 知らない (39人)
 - ・キャリア教育において「人間の大切さ」「生きる大切さ」を教えることが必要 (11人)
 - ・キャリア教育の「マニュアル本」や「カリキュラム」のような持のほしい (10人)
 - ・キャリア教育についての指針や定義がほしい (8人)
 - ・「チャレンジ体験」などを, 小学校から行う必要 (7人)
 - ・キャリア教育＝仕事＝社会科 (5人)
 - ・その他 (7人)—— 必要ない(3人) 負担だ(4人)
- これらの結果から, 以下のことがみえてきた。

- ・キャリア教育の情報の提供をのぞむと回答した教職員が最も多い。
- ・続いてキャリア教育の名前だけ知っている, わからないなどと回答した教職員が多い。
- ・教職員は, キャリア教育の取組についての「マニュアル」や「指針」などをのぞむ回答も多い。
- ・キャリア教育は必要ない, 負担だというような否定的な回答もみられた。

以上のことから, 学校現場では, キャリア教育についての情報が国や教育委員会などから少なく, 何からどのように取り組めばよいかわからないのが現状のように推測する。

第2節 子どもたちの意識調査より

「子どもたちの意識調査」では, 京都市立小学校, 中学校の子どもたちを対象に, 小学校3年生, 6年生および中学校3年生に調査を依頼した。その結果, 小学校3年生1223名, 6年生1123名, 中学校3年生1352名から回答を得ることができた。その回答率は100%であった。

そして以下にあげる観点から「勤労観・職業観を育むための領域・能力に関わる意識」をみていくことにした。

小学校と中学校を比較するために, 統計上, 有意差の検定をおこなった。その結果を有意水準1%以内で有意差がある場合は(**), 5%以内の場合は(*), 有意差なしは(n. s.)と図に表示する。

(1) 勤労観・職業観を育むための

領域・能力に関わる意識

「子どもたちの意識調査」では, 協力者会議報

告書の『学習プログラム(例)』で設定されている「4領域8能力」の観点から見る。ここでは, 意識調査の結果から, 統計上, 学年ごと有意差の検定において格差がみられたものをあげた。

(I)「人間関係形成能力」の領域では, 「自他の理解能力」と「コミュニケーション能力」についての設問をみってみる。

《自他の理解能力》

(a)「お家の人・先生や友だちからのアドバイスをすなおに聞きますか」

図2-9 お家の人・先生や友だちからの
アドバイスをすなおに聞きますか(*)

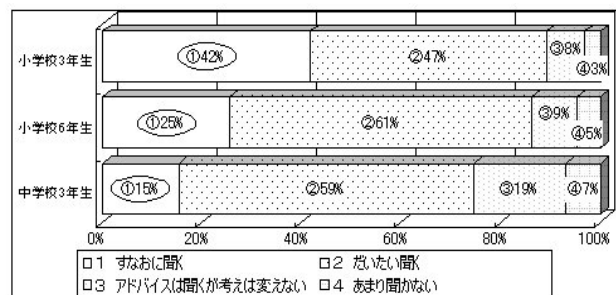


図2-9であきらかなように, アドバイスをすなおに聞きますかで「①すなおに聞く」と答えた比率は, 小学校3年生が, 6年生, 中学校3年生より高いことがみられた。小学校3年生, 6年生, 中学校3年生で「①すなおに聞く」と回答した格差は有意であった。

結果は「①すなおに聞く」が, 小学校3年生で42%, 6年生で25%, 中学校3年生で15%であった。また「②だいたい聞く」が, 小学校3年生で47%, 6年生で61%, 中学校3年生59%であった。

この結果から, 以下のことがみえてきた。

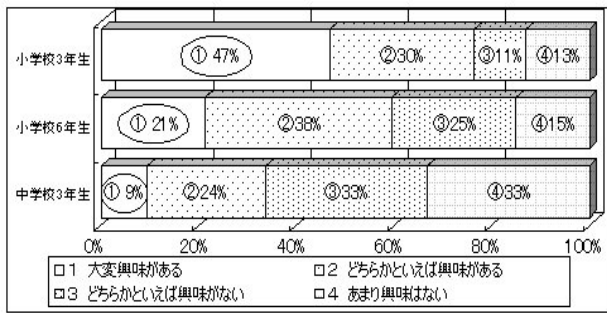
- ・小学校3年生から中学校3年生へと, 学年進行とともに「すなおに聞く」子どもたちの割合が低くなっている。
- ・「だいたい聞く」をあわせると, 小学校3年生で89%, 6年生で86%, 中学校3年生で74%と割合は高い。

(b)「住んでいる所の歴史的な場所や物・産業

伝統に興味がありますか」

図2-10であきらかなように, 住んでいる所の歴史的な場所や物・産業・伝統に興味がありますかで「①大変興味がある」と答えた比率は, 小学校3年生が, 6年生, 中学校3年生より高いことがみられた。小学校3年生, 6年生, 中学校3年生で「①大変興味がある」と回答した格差は有意であった。

図2-10 住んでいる所の歴史的な場所や物・産業伝統に興味がありますか (**)



結果は「①大変興味がある」が、小学校3年生で47%、6年生で21%、中学校3年生で9%であった。また「②どちらかといえば興味がある」が、小学校3年生で30%、6年生で38%、中学校3年生で24%であった。

この結果から、以下のことがみえてきた。

- ・小学校3年生から中学校3年生へと学年進行とともに「住んでいる所の歴史的な場所や物・産業・伝統への興味・関心」の割合が低くなっている。
- ・小学校3年生で77%、6年生で59%が地域について興味を持っているが、中学校3年生では66%が興味を持っていない。

《コミュニケーション能力》

(a) 「だれにでも自分からあいさつしたり、話しかけたりしますか」

図2-11 自分からあいさつしたり、話しかけたりしますか(*)

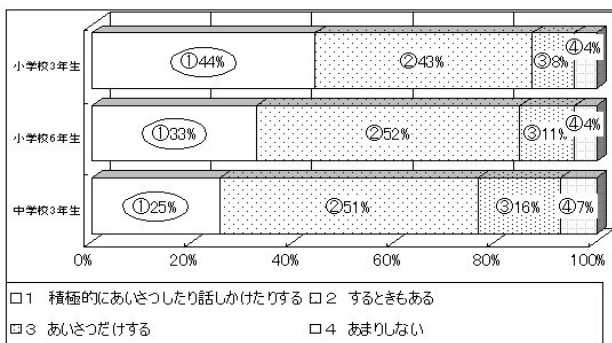


図2-11であきらかなように、自分からあいさつしたり、話しかけたりしますかで「①積極的にあいさつしたり話しかけたりする」と答えた比率は、小学校3年生が、6年生、中学校3年生より高いことがみられた。小学校3年生、6年生、中学校3年生で「①積極的にあいさつしたり話しかけたりする」と回答した格差は有意であった。

結果は「①積極的にあいさつしたり話しかけたりする」が、小学校3年生で44%、6年生で33%、中学校3年生で25%であった。また「②するときもある」が、小学校3年生で43%、6年生で52%、

中学校3年生で61%であった。

この結果から以下のことがみえてきた。

- ・小学校3年生から中学校3年生へと学年進行とともに、自分から「積極的に、あいさつや話しかけをする」ことが少なく、積極的にコミュニケーションをとる割合が低くなっている。
- ・「積極的にあいさつや話しかけをする」と「するときもある」をあわせると、小学校3年生で87%、6年生で85%、中学校3年生で76%であったことで、積極的ではないが、あいさつや話しかけをする子どもたちの割合が高いと考える。

(b) 「行ってみたい国がありますか」

図2-12 行ってみたい国がありますか (*)

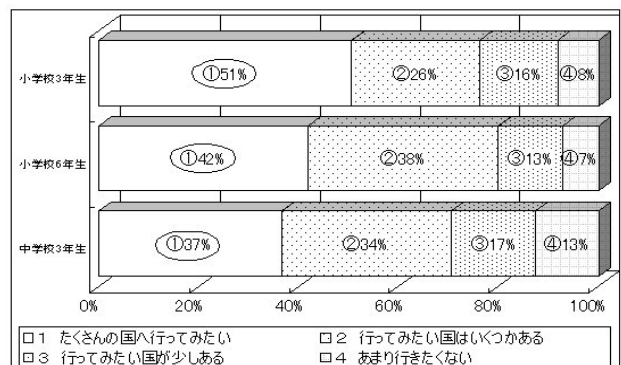


図2-12であきらかなように、行ってみたい国がありますかで「①たくさんの国に行ってみよう」と答えた比率は、小学校3年生が、6年生、中学校3年生より高いことがみられた。小学校3年生、6年生、中学校3年生で「①たくさんの国に行ってみよう」と回答した格差は有意であった。

結果は「①たくさんの国へ行ってみたい」が、小学校3年生で51%、6年生で42%、中学校3年生で37%であった。また「②行ってみたい国がいくつかある」が、小学校3年生で26%、6年生で38%、中学校3年生で34%であった。

この結果から、以下のことがみえてきた。

- ・小学校3年生で92%、6年生で93%、中学校3年生で87%と、「どこか行ってみたい国」があると回答している。
- ・小学校3年生で6%、6年生で7%、中学校3年生で13%が、「あまり行きたくない」と回答している。小学校から中学校へと学年進行とともにその割合が高くなっている。
- ・中学校より小学校の子どもたちの方が「行ってみたい国ある」と回答した割合が高い。

(II) 「情報活用能力」の領域では、「情報収集・探索能力」と「職業理解能力」についての設問をみてる。

《情報収集・探索能力》

(a) 「テレビや新聞などのニュースをみていますか」

図2-13 テレビや新聞などのニュースを見ていますか (**)

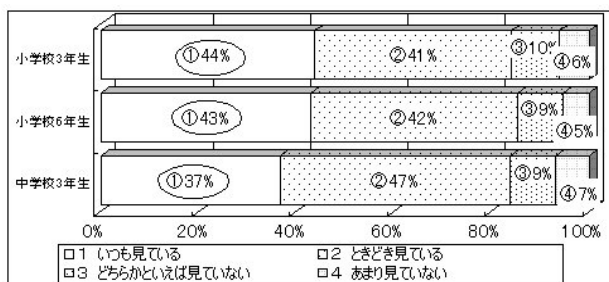


図2-13であきらかなように、テレビや新聞などのニュースをみていますかで「①いつも見ている」と答えた比率は、小学校3年生が、6年生、中学校3年生より高いことがみられた。小学校3年生、6年生、中学校3年生で「①いつも見ている」と回答した格差は有意であった。

結果は「①いつも見ている」が、小学校3年生で44%、6年生で43%、中学校で37%であった。また「②ときどき見ている」が、小学校3年生で41%、6年生で42%、中学校で47%であった。

この結果から、以下のことがみえてきた。

- ・小学校3年生で85%、6年生で85%、中学校3年生で84%がニュースを「いつも見ている」「ときどき見ている」と回答していることで、子どもたちの多くがニュースを見ている割合が高い。
- ・子どもたちの多くが、テレビや新聞などを通して、社会の情報やニュースを知っている割合が高い。

(b) 「情報機器（コンピュータ・携帯電話など）に興味がありますか」

図2-14 情報機器に興味がありますか (*)

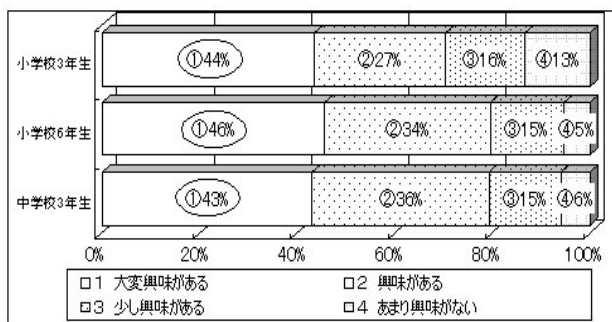


図2-14であきらかなように、情報機器に興味がありますかで「①大変興味がある」と答えた比率は、小学校6年生が、3年生、中学校3年生より高いことがみられた。小学校3年生、6年生、中学校3年生で「①大変興味がある」と回答した格差は有意であった。

結果は「①大変興味がある」が、小学校3年生で44%、6年生で46%、中学生3年生で43%であった。また「②興味がある」が、小学校3年生で27%、6年生で34%、中学生3年生で36%であった。

この結果から、以下のことがみえてきた。

- ・「大変興味がある」「興味がある」をあわせると小学校3年生で71%、6年生で80%、中学校3年生で79%となり、子どもたちの多くが、情報機器などに興味がある。
- ・小学校、中学校の子どもたちの多くが、すでに学校や家などで情報機器を使っているのではないかと考える。

《職業理解能力》

(a) 「家の人の仕事を知っていますか」

図2-15 家の人の仕事を知っていますか (**)

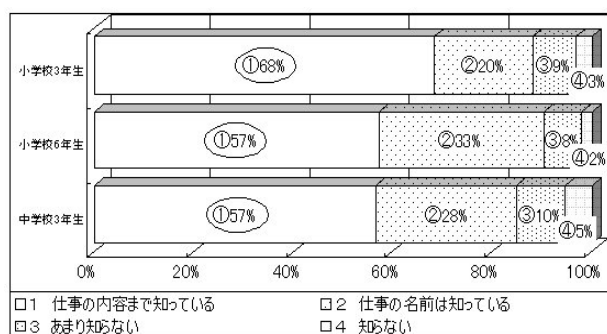


図2-15であきらかなように、家の人の仕事を知っていますかで「①仕事の内容まで知っている」と答えた比率は、小学校3年生が、6年生、中学校3年生より高いことがみられた。小学校3年生、6年生、中学校3年生で「①仕事の内容まで知っている」と回答した格差は有意であった。

結果は「①仕事の内容まで知っている」が小学校3年生で68%、6年生で57%、中学校3年生で57%であった。しかしその反面、中学校3年生で「③あまり知らない」が10%「④知らない」が5%であった。

この結果から、以下のことがみえてきた。

- ・小学校、中学校ともに、家の人の「仕事の内容まで知っている」子どもたちの割合が高い。
- ・中学生で15%が「あまり知らない」「知らない」と回答している。

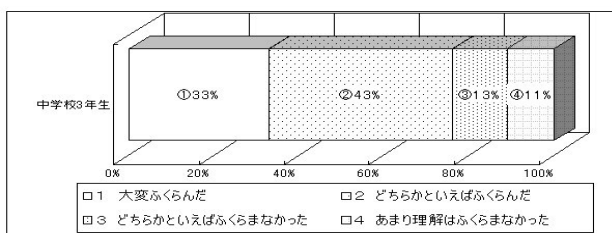
(c) 「生き方探究・チャレンジ体験で

職業について理解がふくらみましたか」
(中学校3年生のみに設問)

図2-16のように「①大変ふくらんだ」が33%、「②どちらかといえばふくらんだ」が43%であった。

図2-16 生き方探究・チャレンジ体験で

職業について理解がふくらみましたか



この結果から、以下のことがみえてきた。

- ・子どもたちにとっては「生き方探究・チャレンジ体験」は有意義なものになっていると考える。
- ・子どもたちは「職業」についての理解がふくらんだと考える。

(Ⅲ) 将来設計・探索能力の領域では、「役割把握・認識能力」と「計画実行能力」についての設問をみている。

《役割把握・認識能力》

(a) 「今通っている学校を卒業した後どこまで勉強したいか」

図2-17 通っている学校を卒業した後どこまで勉強したいか(*)

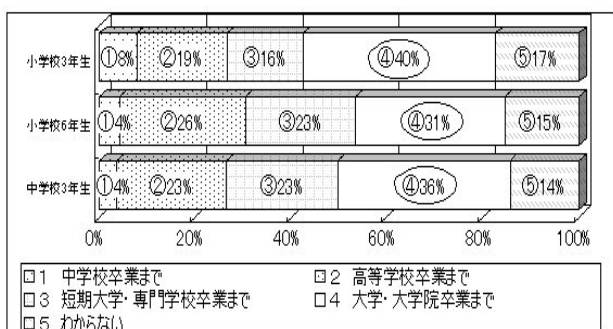


図2-17であきらかなように、今通っている学校を卒業した後どこまで勉強したいかで「④大学・大学院卒業まで」答えた比率は、小学校3年生が、6年生、中学校3年生より高いことがみられた。小学校3年生、6年生、中学校3年生で「④大学・大学院卒業まで」と回答した格差は有意であった。

結果は、「④大学・大学院卒業まで」が小学校3年生で40%、6年生で31%、中学校3年生で36%であった。続いて「③専門学校・短期大学卒業まで」が小学校3年生で16%、6年生で23%、中学校3年生で23%であった。

この結果から、以下のことがみえてきた。

- ・小学校、中学校ともに「大学・大学院卒業」までの進学を望んでいる割合が最も高い。
- ・小学校3年生で75%、6年生で80%、中学校3年生で82%が高等学校より上級学校の卒業までと回答している。

(2) 「家で勉強していますか」

図2-18 家で勉強していますか(**)

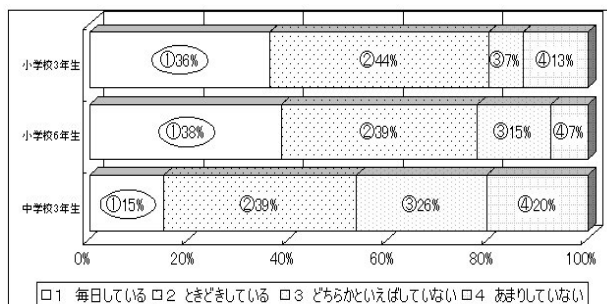


図2-18であきらかなように、家で毎日勉強していますかで「①毎日している」と答えた比率は、小学校6年生が、3年生、中学校3年生より高いことがみられた。小学校3年生、6年生、中学校3年生で「①毎日している」と回答した格差は有意であった。

結果は「①毎日している」が、小学校3年生で36%、6年生で38%、中学校3年では15%であった。「②ときどきしている」が、小学校3年生で44%、6年生で39%、中学校3年では39%であった。

この結果から、以下のことがみえてきた。

- ・小学校から中学校へと学年進行とともに、家で勉強している割合が低くなっている。
- ・小学校3年生で80%、6年生で77%、が「毎日している」または「ときどきしている」と回答している。
- ・中学校3年生は、高校等への受験期でありながら、家で勉強を「毎日している」と回答した子どもたちが15%と小学校にくらべて割合が低い。

《計画実行能力》

(a) 「夢を持っていますか」

図2-19 夢を持っていますか(*)

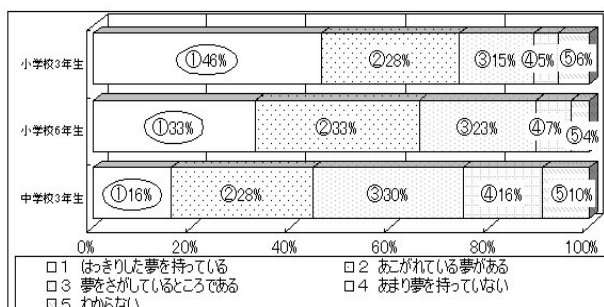


図2-19であきらかなように、夢を持っていますかで「①はっきりした夢を持っている」と答えた比率は、小学校3年生が、6年生、中学校3年生より高いことがみられた。小学校3年生、6年生、中学校3年生で「①はっきりした夢を持っている」と回答した格差は有意であった。

結果は「①はっきりした夢を持っている」が小学校3年生で46%，6年生で33%，中学校3年生で16%

で、「②あこがれの夢がある」が小学校3年生で28%，6年生で33%，中学校3年生で28%であった。しかし、中学校3年生では「③夢をさがしているところである」が30%，「④夢を持っていない」が16%，「⑤わからない」が10%であった。

この結果から、以下のことがみえてきた。

- ・「はっきりした夢を持っている」「あこがれの夢がある」と小学校3年生で74%，6年生で66%が回答している。
- ・中学校3年生では「夢をさがしているところである」「夢を持っていない」「わからない」が、56%の回答があり、その割合が小学校より高い。
- ・小学校から中学校へと学年進行とともに、「夢を持っている」と回答した子どもたちの割合が低くなっている。

(2) 「夢の実現のために努力していますか」

図2-20 夢の実現のために努力していますか (**)

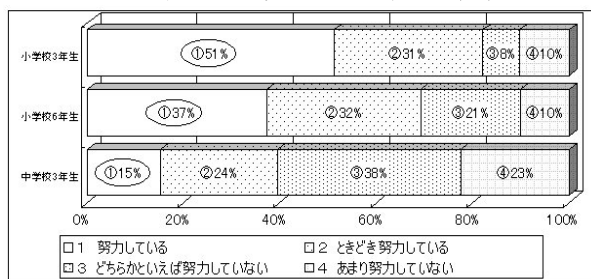


図2-20であきらかなように、夢の実現のために努力していますかで、「①努力している」と答えた比率は、小学校3年生が、6年生、中学校3年生より高いことがみられた。小学校3年生、6年生、中学校3年生で「①努力している」と回答した格差は有意であった。

結果は「①努力している」が小学校3年生で51%と6年生で37%，中学校3年生で15%であった。また「④あまり努力していない」が小学校3年生、6年生ともに10%であったが、中学校3年生では23%であった。

この結果から、以下のことがみえてきた。

- ・小学校から中学校へと学年進行とともに「努力している」と回答した割合が低くなっている。
- ・中学校3年生では「どちらかといえば努力していない」「あまり努力していない」の回答をあわせると61%で、小学校より割合が高い。

(IV) 意思決定能力の領域では、「選択能力」と「課題解決能力」についての設問をみえる。

《選択能力》

(a) 「将来仕事につくことについて心配なことがありますか」

図2-21 仕事につくことについて心配なことがありますか(*)

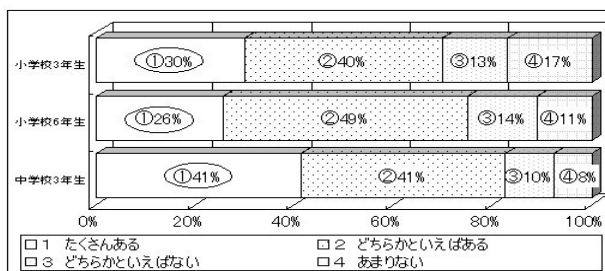


図2-21であきらかなように、将来仕事につくことについて心配なことがありますかで、「①たくさんある」と答えた比率は、中学校3年生が、小学校3年生、6年生より高いことがみられた。小学校3年生、6年生、中学校3年生で「①人や社会のためになる仕事」と回答した格差は有意であった。

結果は「①たくさんある」が、小学校3年生で30%，6年生で26%，中学校3年生では41%であった。また「②どちらかといえばある」が、小学校3年生で40%，6年生で49%，中学校3年生で41%であった。

この結果から、以下のことがみえてきた。

- ・将来、仕事につくことへの不安が「たくさんある」「どちらかといえばある」が小学校3年生で70%，6年生で75%，中学校3年生で82%と回答している割合が高い。
- ・小学校から中学校へと学年進行とともに、将来仕事につくことに心配している子どもたちの割合が高い。

《課題解決能力》

(a) 「悩みや不安などを解決するとき誰に相談しますか」

図2-22 悩みや不安などを解決するとき誰に相談しますか(*)

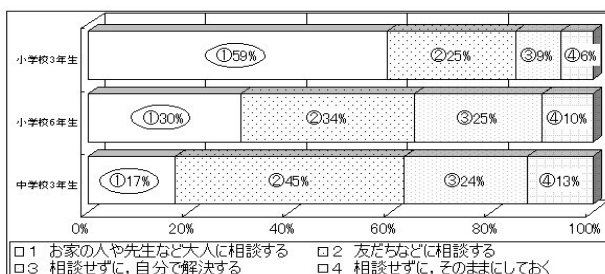


図2-22であきらかなように、悩みや不安などを解決するとき誰に相談しますかで、「①お家の人や先生など大人に相談する」と答えた比率は、小学校3年生が、6年生、中学校3年生より高いことがみられた。小学校3年生、6年生、中学校3年生で「①お家の人や先生など大人に相談する」と回

答した格差は有意であった。

結果は「①お家の人や先生など大人に相談する」が小学校3年生で59%、6年生で30%、中学校3年生で17%であった。「③相談せずに自分で解決する」「④相談せずにそのままにしておく」が合わせると、小学校3年生の15%、6年生で35%、中学校3年生で37%であった。

この結果から、以下のことがみえてきた。

- ・小学校では、「大人に相談する」割合が高いが中学校では「友だちなどに相談する」割合が高い。
- ・小学校から中学校へと学年進行とともに、「相談せずに自分で解決する」「相談せずにそのままにしておく」と回答した子どもたちの割合が高くなっている。

(2) キャリア形成に関する意識

次に前項の子どもたちの『意識調査』の結果をクロスさせ、キャリア形成に関する意識についてみてみることにした。

「キャリア」とは、「人の生き方」であると考え、「キャリア教育」は、自己の生き方を考え、共に学び高めあい、自己実現を目指す教育と考える。具体的には、自分を見つめ「自分の夢」をつくることにより、自己の良さや可能性などを気づかせ、将来の「夢」をもたせ「夢」の実現のために「何を考え」「何をなすべきか」を考えさせることである。そこで、この「夢」をキーワードとして、キャリア形成に関する意識をみでみる。

上記のことから、設問26「夢を持っているか」を柱として、2項目を選び集計をおこった。その集計をおこなうために以下のように分類した。

設問26「夢を持っているか」	
「はっきりした夢を持っている」「あこがれの夢がある」	→『夢を持っている』群
「夢をさがしているところ」「あまり夢を持っていない」「わからない」	→『夢を持っていない』群
設問31「夢の実現のために努力していますか」	
「努力している」「どちらかといえば努力している」	→『努力している』群
「どちらかといえば努力している」「あまり努力していない」	→『努力していない』群
設問36「将来仕事につくことについて心配なことがありますか」	
「たくさんある」「どちらかといえばある」	→『ある』群
「どちらかといえばない」「あまりない」	→『ない』群

「夢を持っている」と「夢を持っていない」を比較し、統計上、有意差の検定をおこなった。その結果を有意水準1%以内で有意差がある場合は(**), 5%以内の場合は(*)と以下の表に表示する。

①「夢の実現に向けて努力しているか」

表2-6であきらかなように、「夢を持っている」子どもたちで「夢の実現に向けて努力しているか」の設問に「努力している」と答えた比率は、小学校3年生が、6年生、中学校3年生より高いことがみられた。小学校3年生、6年生、中学校3年生で「努力している」と回答した格差は有意であった。

表2-6 夢の実現に向けて努力しているか(*)

小学校3年生	夢の実現に向けて努力しているか	
	している	していない
夢を持っている	806人(90%)	96人(10%)
夢を持っていない	198人(61%)	123人(39%)
小学校6年生	夢の実現に向けて努力しているか	
	している	していない
夢を持っている	583人(79%)	156人(21%)
夢を持っていない	192人(50%)	192人(50%)
中学校3年生	夢の実現に向けて努力しているか	
	している	していない
夢を持っている	294人(49%)	306人(51%)
夢を持っていない	240人(31%)	512人(69%)

表2-6のように「夢を持っている」子どもたちで、夢の実現に対して「努力している」が、小学校3年生で90%、6年生で79%、中学校3年生で49%であった。また「夢を持っていない」子どもたちで、夢の実現に対して「努力している」が、小学校3年生で61%、6年生で50%、中学校3年生で31%であった。

続いて、「夢を持っている」子どもたちで夢の実現に対して「努力していない」が、小学校3年生で10%、6年生で21%、中学校3年生で51%であった。また「夢を持っていない」子どもたちで夢の実現に対して「努力していない」が、小学校3年生で39%、6年生で50%、中学校3年生で69%であった。

この結果から、以下のことがみえてきた。

- ・小学校から中学校へと学年進行とともに、「夢を持っている」と回答し、夢の実現のために「努力していない」と回答した子どもたちの割合が高くなっている。
- ・特に中学校3年生の51%が、「夢を持っている」が、夢の実現のために「努力していない」と回答している。
- ・小学校から中学校へと学年進行とともに、「夢を持っていない」と回答し、夢の実現のために「努力していない」と回答した子どもたちの割合が高くなっている。

②「将来仕事につくことについて

心配なことがありますか」

表2-7であきらかなように、「夢を持っている」子どもたちで「将来仕事につくことについて心配なことがありますか」の設問に「ある」と答えた比率は、中学校3年生が、小学校3年生、6年生より高いことがみられた。小学校3年生、6年生、中学校3年生で「ある」と回答した格差は有意であった。

表2-7将来仕事につくことについて心配なことがありますか(*)

小学校3年生	仕事につくことについて心配なことがありますか	
	ある	ない
夢を持っている	617人(68%)	285人(32%)
夢を持っていない	236人(74%)	85人(26%)
小学校6年生	仕事につくことについて心配なことがありますか	
	ある	ない
夢を持っている	577人(76%)	182人(24%)
夢を持っていない	285人(75%)	99人(25%)
中学校3年生	仕事につくことについて心配なことがありますか	
	ある	ない
夢を持っている	404人(85%)	96人(15%)
夢を持っていない	614人(81%)	138人(19%)

表2-7のように「夢を持っている」子どもたちで仕事につくことについて心配なことが「ある」が、小学校3年生で68%、6年生で76%、中学校3年生で85%であった。また「夢を持っていない」子どもたちで仕事につくことについて心配なことが「ある」が、小学校3年生で74%、6年生で73%、中学校3年生で81%であった

続いて、「夢を持っている」子どもたちで仕事につくことについて心配なことが「ない」が、小学校3年生で32%、6年生で24%、中学校3年生で15%であった。また「夢を持っていない」子どもたちで仕事につくことについて心配なことが「ない」が、小学校3年生で26%、6年生で25%、中学校3年生で19%であった

この結果から、以下のことがみえてきた。

- ・中学校3年生では、「夢は持っていない」が、将来の仕事については心配で「ある」と回答している割合が最も高い。
- ・小学校、中学校ともに、「夢を持っている」「夢を持っていない」にかかわらず仕事につくことに心配している割合が高い。

前節「図2-19 (P18) と図2-21 (P19)」からもわかるように、小学校から中学校へと学年進行にとともに「夢を持っていない」子どもたちの比率が多くなっていることがわかった。それとともに小学校、中学校の子どもたちの多くが、「将来の仕事についての心配なことを多く持っている」こと

もわかった。また「夢を持っている」「持っていない」、心配なことが「ある」「なし」に関わらず、将来仕事につくことに、子どもたちは、不安や心配などを持っていることがわかった。

今回の『意識調査』の結果から、教職員の『意識調査』においては、小学校、中学校教職員ともにキャリア教育の必要性は感じているが、まだまだキャリア教育の内容などがあまり浸透していない。そのため、キャリア教育を進めるにあたり、何をどう取り組めばよいのかなどが、わからないのではないかと考える。

子どもたちの『意識調査』においては、たとえば「コミュニケーション能力」の設問の回答をみると、小学校から中学校へと学年進行にとともに、コミュニケーションがとりにくくなっているように考える。全体を通してしてみると、小学校から中学校へと学年進行にとともに、キャリア教育の目指す、自己実現に向けた力がつきにくくなっているように考える。そして自己の「夢」の実現のために「何を考え」「何をなすべきか」などがみえてこないのではないかと考える。

第3章 キャリア教育を進めるにあたって

第1節 育てたい力と課題

(1) 夢の実現に向けてみえてきたもの

前章の『意識調査』の結果から、みえてきたことを中心に、ここでは子どもたちにとって今「何が必要なのか」「何をすればよいのか」などを考えることにした。そこで、『意識調査』の結果をよりわかりやすくすることにした。そして「協力者会議報告書『学習プログラム(例)』」の4領域を柱にレーダーチャートを作成し、どの領域に課題があるか、「育てたい力」が育っているかを考えた。

そしてレーダーチャートを作成にあたり、「協力者会議報告書『学習プログラム(例)』」の4領域に分類した設問を、以下のように点数化して集計した。たとえば「人間関係形成能力」についての設問では以下のように点数化し集計した。

設問1. たくさんの友だちがいますか	
①たくさん友だちがいる	10
②どちらかといえば友だちがいるほうだ	6 ½
③どちらかといえば友だちがいないほうだ	3 ½
④あまり友だちはいない	0

以下の4領域を柱にした設問についても、同様に点数化し集計をおこなった。

《人間関係形成能力》

- ・ たくさんの友だちがいますか
- ・ 話し合いでは進んで発表しますか
- ・ お家の人・先生や友だちからのアドバイスをすなおに聞きますか
- ・ 住んでいる所の歴史的な場所や物・産業・伝統に興味がありますか
- ・ 毎日の生活が楽しいですか
- ・ だれにでも自分からあいさつしたり、話しかけたりしますか
- ・ みんなと仲よく遊べますか
- ・ いろいろな国の人々と友だちになりたいですか
- ・ いろいろな国の言葉話してみたいですか
- ・ 行ってみたい国がありますか
- ・ 住んでいる所の行事やボランティア活動に参加していますか
- ・ おおぜいの人といるのが好きですか
- ・ まわりの人に協力しますか
- ・ 家族みんなと話をしていますか
- ・ 家族と出かけることがありますか

《情報活用能力》

- ・ テレビや新聞などのニュースを見ていますか
- ・ 流行や新しいものに興味がありますか
- ・ 社会の出来事に対して疑問を持つ方ですか
- ・ 情報機器に興味がありますか
- ・ コンピュータを使っていろいろなことを調べることができますか
- ・ 家の人の仕事を知っていますか
- ・ 知っている仕事のことについて説明できますか
- ・ いままでで学んだことや体験したことが生活に役立っていますか
- ・ 生き方探究・チャレンジ体験で職業の理解がふくらみましたか

《将来設計・探索能力》

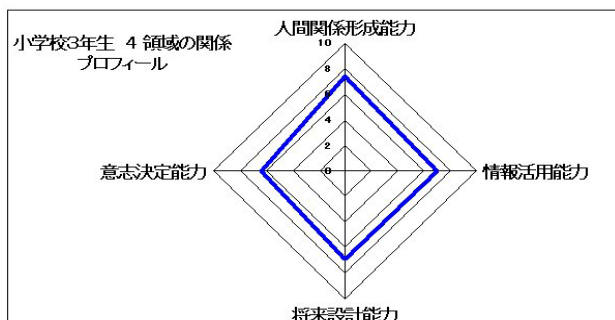
- ・ 家で勉強をしていますか
- ・ 今勉強していることが将来役に立つと思いますか
- ・ 将来の夢を持っていますか
- ・ 勉強でも遊びでも計画を立て、その通りに実行していますか
- ・ 興味があることには熱中しますか
- ・ 将来どのような仕事につきたいですか
- ・ 今自分の将来の夢を実現させるために努力していますか

《意思決定能力》

- ・ 何かを進めるときに1人で決めることができますか
- ・ 将来仕事につくことについて心配なことがありますか
- ・ 失敗したらすぐにあきらめる方ですか
- ・ ものを作ったり、調べたりすることが好きですか
- ・ 生活で「不思議だな」「すごいな」と思うことがありますか

以上の各項目を、点数化をおこない、平均化して各領域に割り当てた。

図3-1 小学校3年生の関係のプロフィール

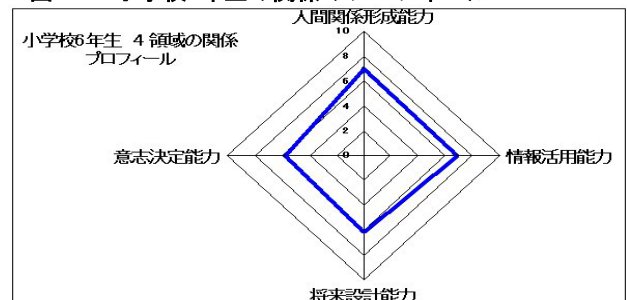


小学校3年生では図3-1のように「4領域」における各領域の力関係は、各領域ともに得点が高く、そして、「4領域」の力の関係もバランスがとれた形となった。

この段階では、以下のことがみえてきた。

- ・ 小学校3年生においては、各領域の得点は7得点以上の結果であった。
- ・ 各領域における力は、バランスがとれていると考える。

図3-2 小学校6年生の関係のプロフィール



小学校6年生では、図3-2のように小学校3年生よりも「将来設計能力」「意思決定能力」の領域の得点が1得点程度低くなった。そして、全体的に領域の点数も低くなっている。

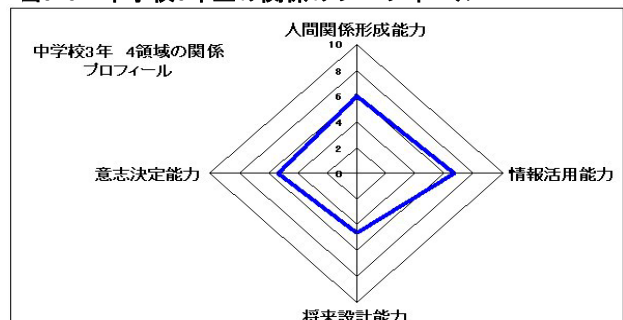
この段階では、以下のことがみえてきた。

- ・ 小学校3年生より各領域の得点が低い。
- ・ 特に、小学校3年生より「将来設計能力」「意思決定能力」の得点が低い。
- ・ レーダーチャートの形は、小学校3年生と同様に各領域における力が、バランスのとれた形になっている。

これらの結果から、小学校段階では、「4領域」において「育てたい力」が同じ程度の力を養うことができているように考える。しかし、学年進行にともない「将来設計能力」「意思決定能力」の得点が低くなっていることが気になる。

この結果は、年齢とともに自己が形成される過程で、様々な情報や現象に接することで、将来に関する不安などがあらわれてきたように考える。

図3-3 中学校3年生の関係のプロフィール

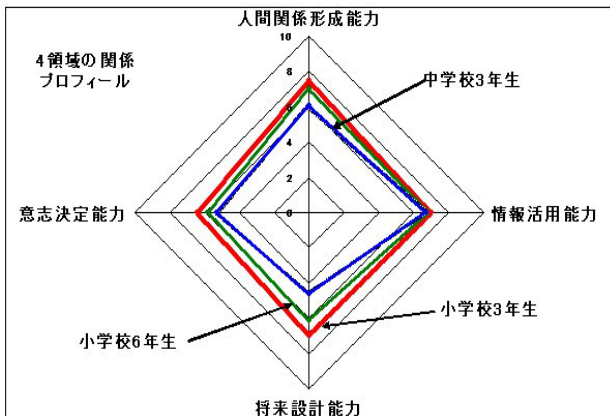


次に、中学校3年生では、図3-3を見れば、わかるように、小学校段階に比べ、レーダーチャートの形がくずれた形になっている。「人間関係形成能力」「将来設計能力」「意思決定能力」の領域の得点が低くなっている。なかでも「将来設計能力」においては、小学校3年生に比べ4得点も低下している。しかし「情報活用能力」は小学校と同様の得点であった。

この段階では、以下のことがみえてきた。

- ・中学校3年生では、小学校3年生に比べ「人間関係形成能力」「将来設計能力」「意思決定能力」の3領域で得点が低い。
- ・特に「将来設計能力」が、小学校3年生に比べ得点が低い。

図3-4 各学年における4領域の関係のプロフィール



そこで、各学年で作成したレーダーチャートをあわせて、図3-4のように、1つのレーダーチャート図を作成した。この図3-4をみてもわかるように、学年進行とともに、領域の得点が低くなっていることがみえる。

この結果から、以下のことがみえてきた。

- ・「情報活用能力」をのぞき、小学校から中学校へと学年進行とともに、各領域の能力の得点が低くなっている。
- ・なかでも中学校3年生の「将来設計能力」が小学校3年生に比べ特に得点が低い。
- ・続いて「人間関係形成能力」の得点が小学校から中学校へと学年進行とともに、得点が低くなっている。

以上の結果からみえてきたことおよび、前章の『意識調査』からもわかるように、「学習プログラム(例)」の4領域の能力で、「情報活用能力」をのぞく「人間関係形成能力」「将来設計能力」「意思決定能力」の3領域の能力は、小学校3年生から中

学校3年生へと学年進行とともに、その得点の割合が低くなっている。

この結果から、人間関係を築くことに不安を持ち、「将来設計・将来展望」に不安を持つ子どもたちや、「仕事につくこと」への不安を持つ子どもたちがみえてきた。

また、学年進行とともに、教職員の意識調査の意見にもあったように「何とかなる」などの考えが、出てきているように推測する。

しかし、このように、人間関係を築くこと、「将来設計・将来展望」や「仕事につくこと」に不安があるということは、将来の自分や仕事のことを考えているかに思え、このことは、キャリア教育を推進するにあたり意義があると考ええる。

そして、キャリア教育を小学校段階から取り組むことが大切であると考ええる。小学校段階から「勤労観・職業観」をしっかりと考え、自己の「将来の夢」の実現に向けての展望を築かせることが大切であると考ええる。

(2) 「生き方探究教育」で育てたい力

(「共生と自立」を柱とした5つの領域と17の力)

前章の『意識調査』の結果や前項の「4領域」を柱とするレーダーチャートをみてもわかるように、「人間関係形成能力」「将来設計能力」「意思決定能力」の3領域の能力は、小学校3年生から中学校3年生へと学年進行とともに、低くなっているという課題がでてきた。

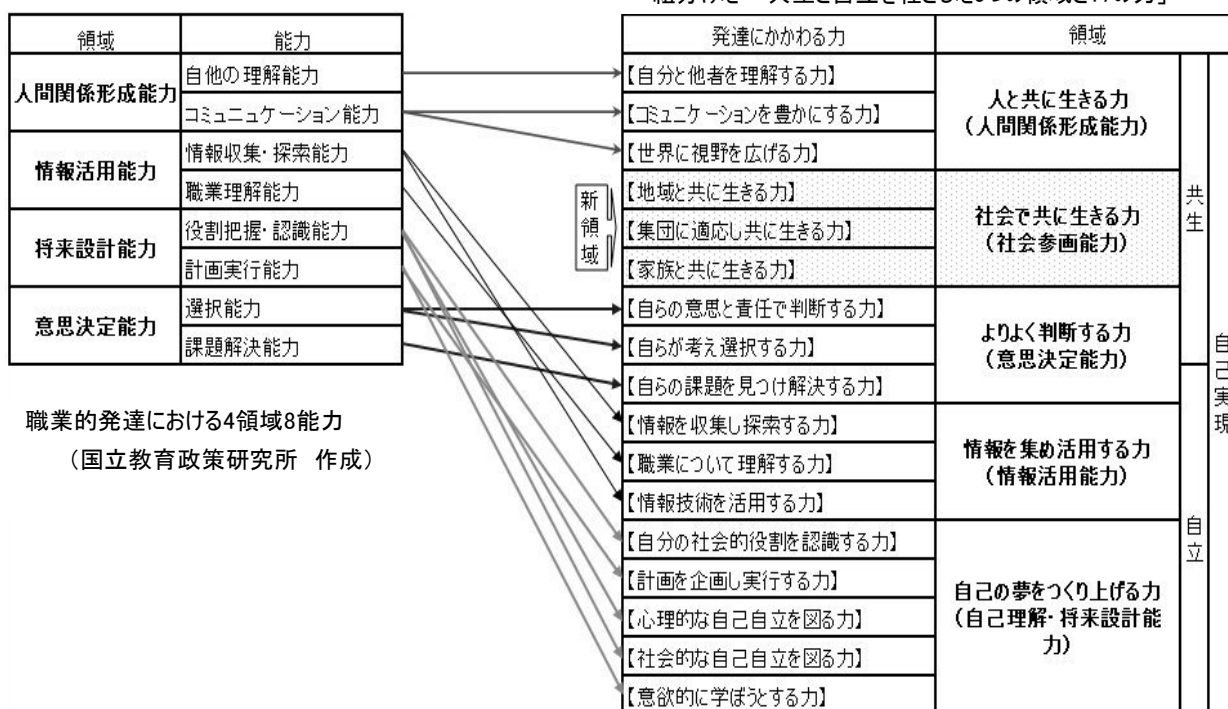
この結果から、子どもたちが、社会のなかで、人や社会と共に生き、自己実現に向けた力がつきにくくなっているように考える。そして自己の「夢」の実現のために何を考え、何をなすべきかがみえてこないのではないかと考える。

そこで、子どもたちが「何につまずき」「何が必要なのか」、子どもたちにとって「育てたい力」とは何かを考えた。そして、キャリア教育における子どもたちの発達課題を、より明確に、よりわかりやすくすることで「育てたい力」をつけることができるのではないかと考えた。

協力者会議報告書の『学習プログラム(例)』では、キャリア教育における子どもの発達課題を「4領域8能力」(「表1-3 (P7)」)で示している。

しかし、ここではキャリア教育を「生き方探究教育」と名付け、本市が従来から大切にしてきた「共生と自立」を柱にし、「人や社会と共に生き」「自己の生き方」を考え、「個としての自立」を促し、「自己実現」できるように考えた。そして、「育てたい力」の「領域と能力」を子どもたち

図3-5 領域・能力の組分け図



の実態にあった形で、より明確に、よりわかりやすくするように組み分けることにした。

その分類を図3-5のように「共生と自立を柱とした5つの領域と17の力」に組分けした。この「5つの領域と17の力」では、職業的発達に関わる諸能力の育成を視野に入れて、第1章の「キャリア教育の定義」で示した、「生き方を考え、生きる力をはぐくむキャリア教育」(「図1-3 P2」)における、子どもたちのキャリア発達の段階および、それぞれの段階において、身につけることが期待される力を示した。そこで「共生と自立を柱とした5つの領域と17の力」において「育てたい力」を、以下のように示す。

《共生の領域》

人は、ひとりで生きることはできない。多くの人々と、お互いに協力し、共同して何事にも取り組み、家庭・地域・社会のしくみの中で、様々な役割と責任をはたしながら、共に生きている。そこで、キャリア発達に関わる1つめの柱を「共生」(共に生きる力)とし、2つの領域を設定した。

①「人と共に生きる力」(人間関係形成能力)

他者の個性を尊重し、自分の個性を発揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組むとともに、世界に視野を広げる力を育てる力と位置づけ、以下の

3つの力を設定した。

・「自分と他者を理解する力」

自らのよさを知ることで、自己理解を深めるとともに、他者の多様な個性を理解し、共感・感動し、お互いに認め合うことを大切にして行動していく力

・「コミュニケーションを豊かにする力」

多様な社会生活の中で、豊かな人間関係やコミュニケーションを築きながら、自己の考えや他者の考えをお互いに伝えながら成長していく力

・「世界に視野を広げる力」

世界にも視野を広げ、英語をはじめ外国語を使って、お互いが意思や感情、思考伝達をしようことの大切さを知り、積極的に世界の国々に対して、理解をするとともに人間関係を築く力

②「社会で共に生きる力」(社会参画能力)

保護者・地域との連携を深め、生き方に関わる活動を共に高め合い、自らが生活する地域でのふさわしい生き方、地域や社会への貢献や生きていくために必要な事に関連づける力と位置づけ、新たな力を、以下のように3つの力として設定をした。

・「地域とともに生きる力」

地域の実態や歴史・伝統・産業の果たすべき役割や自らが地域で生活し、生きていくために必要な事を明確にし、自分自身にふさわしい生き方と地域・産業界への連携をはかる力

- ・「集団に適応し共に生きる力」
学級や学校・さまざまな集団などのかかわりの中から、自分のよさや役割を知り、人を思いやる心の大切さを知ること、自らの課題や集団の大切さを理解し適応する力
- ・「家族と共に生きる力」
家族との関わりの中から、自らの役割や家族の大切さを知り、規則正しい生活習慣の奨励、家族の対話や挨拶の励行など、家族とともに生き方を考え実践する力

《自立の領域》

次に、子どもたちが、自らの意思と責任で、自らの将来について目標を持ち、意欲的に生きていくために、キャリア発達に関わる2つめの柱を「自立」とし、2つの領域を設定した。

①「情報を集め活用する力」（情報活用能力）

学ぶこと、働くことの意義や役割およびその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の将来の夢の実現や生き方の選択に生かす力として位置づけた。そして以下の3つの力の設定をした。

- ・「情報を収集して探索する力」
進路や職業等に関するさまざまな情報を収集・探索するとともに、必要な情報を選択・分析・活用し、自己の進路や生き方を考える力
- ・「職業について理解する力」
生き方に関わる体験等を通して、さまざまな職業の内容や特徴について認識するとともに、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連や、今やらなければならないことを理解する力
- ・「情報技術を活用する力」
コンピュータなど情報機器を使い、情報もラルをふまえ、積極的に情報収集・選択・表現・発信する力

②「自己の夢をつくり上げる力」

(自己理解・将来設計能力)

夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の夢(将来)の実現を設計する力と位置づけ、以下のように5つの力の設定をした。

- ・「自分の社会的役割を認識する力」
生活・仕事上の多様な役割や意義およびその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていく力
- ・「計画を企画し実行する力」
目標とすべき将来の生き方や進路を考え、それを実現するための進路計画を立て、実現に向けて行動する力

- ・「心理的な自己自立を図る力」
生活・学習上の多様な役割や意義等を理解し、自己の夢の実現に向けて価値観、信念、理想を確立して生活設計を組立てる力
- ・「社会的な自己自立を図る力」
自分の身近なところから、何事についても自分の意志で決め、自分の力で取り組んでいけるよう自立していくための意欲を向上する力
- ・「意欲的に学ぼうとする力」
生きることへの自信と目標を持ち、基本的な生活習慣を身につけるとともに、子どもたちの主体的学習を促し、社会で適応できる学力の向上を図る力

《共生と自立に関わる領域》

そして、「共生」と「自立」の両面に深く関わり、キャリア発達に関わる領域として、人が望ましいキャリア形成していく上で最も主要な位置を占める領域を設定した。

①「よりよく判断する力」（意思決定能力）

自らの意思と責任でよりよい選択・決定・判断をおこなうとともに、その過程での課題を積極的に取組、克服する力として位置づけた。そして以下の3つの力の設定をした。

- ・「自らの意思と責任で判断する力」
先を見通し様々なことからの特色を知り、今までに学んだ事を応用して計画などを作り、自らの意思と責任で判断する力
- ・「自らが考え選択する力」
さまざまな選択肢について比較検討したり、さまざまな課題を克服したりして、自らにふさわしい選択していく力
- ・「自らの課題を見つけ解決する力」
意思決定に伴う責任を受け入れ、選択結果に適応するとともに、希望する進路の実現に向け、問題を設定し、問題解決的な学習(考える力、調べる力、まとめる力、表現する力)を取り入れ、解決に取り組む力

以上のように、「共生と自立を柱とした5つの領域と17の力」を設定した。そして、その領域と力をもとに、「生き方を考え、生きる力をはぐくむキャリア教育の『学習プログラム枠組み(例)』」(以下「生きる力『学習プログラムの枠組み(例)』」)を作成した。(巻末付表6)
この「生きる力『学習プログラムの枠組み(例)』」は、子どもたちのキャリア発達の段階と、それぞれの段階において身につけることが期待される力を、職業的発達に関わる諸能力の育成を視野に入れたものである。

この「生きる力『学習プログラムの枠組み

(例)』」は、一人一人のキャリア発達や個としての自立を促すキャリア教育の視点に立って、将来の生き方を考え、さまざまな学習や活動の中でどのように「能力・態度」を身につけ、いかしていくかを示した。そこで、各学校は、家庭・地域・社会や関係機関と連携する機会を積極的にもち、この「生きる力『学習プログラムの枠組み(例)』」をもとに、学校や地域の特色をいかすことが大切である。そして、子どもの実態に応じた各校独自の「学習プログラム」を作成し、子どもたちが自らの生き方を見すえ、主体的に進路選択や将来設計ができる「生き方を考え、生きる力をはぐくむキャリア教育」の推進に向けての取り組む必要があると考える。

(3) 「5つの領域と17の力」からみえてきたもの

続いて「生きる力をはぐくむ『学習プログラムの枠組み(例)』」をもとに、前章の意識調査の結果を、「共生と自立を柱にした5つの領域と17の力」の関係で見直すことにした。前節の「4領域」のレーダーチャートおよび前章の『意識調査』においては、各領域の能力のうち「情報活用能力」をのぞき、「人間関係形成能力」「将来設計能力」「意思決定能力」の3領域の能力は、小学校3年生から中学校3年生へと学年進行とともに、低下しているという課題がでてきた。

そこで、今子どもたちにとって「何が必要なのか」「何をすればよいのか」などを考えることにした。キャリア教育を進めるにあたって、何をどうすればよいかを考え、「4領域」のレーダーチャートでみえてきた「課題」や「育てたい力」をさらに見直すことにした。そこで「5つの領域」を柱にレーダーチャートを作成した。

レーダーチャートを作成にあたり、前章の設問を図3-5で改編した5領域に分類し、4領域と同様に点数化して集計した。設問の分類は以下である。

《人と共に生きる力》

- ・ たくさんの友だちがいますか
- ・ 話し合いでは進んで発表しますか
- ・ お家の人・先生や友だちからのアドバイスをすなおに聞きますか
- ・ だれにでも自分からあいさつしたり話しかけたりしますか
- ・ みんなと仲よく遊べますか
- ・ いろいろな国の人々と友だちになりたいですか
- ・ いろいろな国の言葉を話してみたいですか
- ・ 行ってみたい国がありますか

《社会で共に生きる力》

- ・ 住んでいる所の行事やボランティア活動に参加していますか

- ・ 住んでいる所の歴史的な場所や物・産業・伝統に興味があるか
- ・ 毎日の生活が楽しいですか
- ・ おおぜいの人といるのが好きですか
- ・ まわりの人に協力しますか
- ・ 家族みんなと話をしていますか
- ・ 家の人の仕事を知っていますか
- ・ 家族と出かけることがありますか

《情報を集め活用する力》

- ・ テレビや新聞などのニュースを見ていますか
- ・ 流行や新しいものに興味がありますか
- ・ 社会の出来事に対して疑問を持つ方ですか
- ・ 知っている仕事のことについて説明できますか
- ・ 学んだことや体験したことが、生活に役にたっていますか
- ・ 生き方探究・チャレンジ体験で職業に理解がふくらみましたか
- ・ 情報機器(コンピュータや携帯電話など)に興味がありますか
- ・ コンピュータを使っていろいろなことを調べることができるか

《自己の夢を作り上げる力》

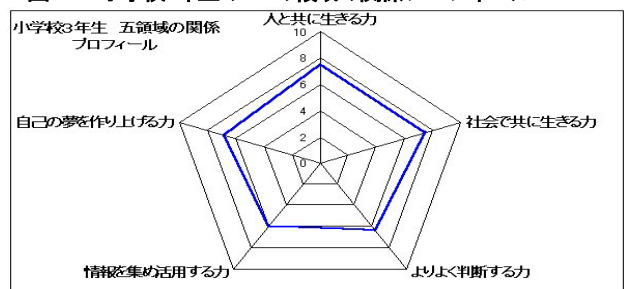
- ・ 将来の夢を持っていますか
- ・ 勉強でも遊びでも計画を立て、その通りに実行していますか
- ・ 興味があることには熱中しますか
- ・ 今自分の将来の夢を実現させるために努力していますか
- ・ 家で勉強をしていますか
- ・ 今勉強していることが将来役に立つと思いますか

《意思決定能力》

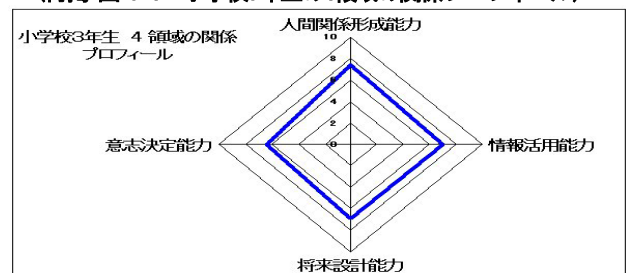
- ・ 何かを進めるときに1人で決めることができますか
- ・ 将来仕事につくことについて心配なことがありますか
- ・ 失敗したらすぐにあきらめる方ですか
- ・ ものを作ったり、調べたりすることが好きですか
- ・ 生活で「不思議だな」「すごいな」と思うことがありますか

以上の各項目を、点数化をおこない、平均化して各領域に割り当てた。

図3-6 小学校3年生の5つの領域の関係プロフィール



(再掲 図3-1) 小学校3年生の4領域の関係プロフィール



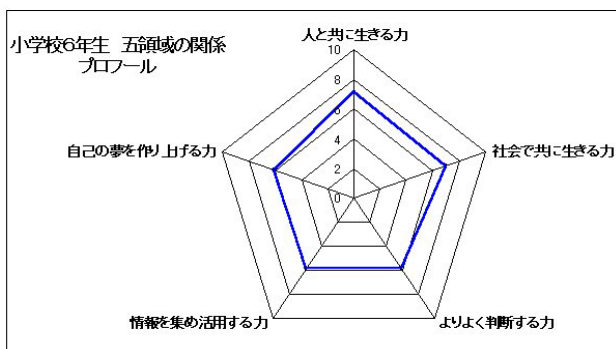
小学校3年生では、先に示した図3-1のように「4領域」の関係においては、どの領域においても7

得点あった。「5つの領域」の関係においては、図3-6のように、図3-1と同様に、どの領域においても、バランスのとれた形となっている。しかし「情報を集めて活用する力」が4領域の場合より1得点程度低くなっている。

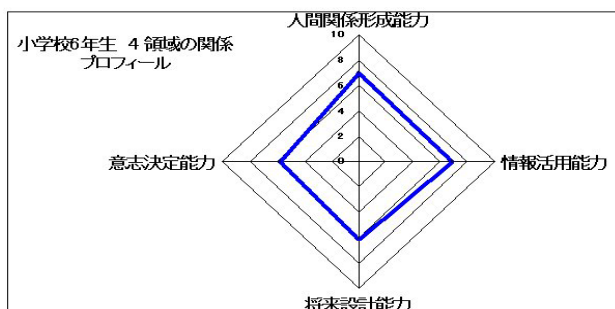
この段階では、以下のことがみえてきた。

- ・小学校3年生において、各領域における力は4領域の場合(図3-1)と変わらずバランスがとれている。

図3-7 小学校6年生の5つの領域の関係プロフィール



(再掲 図3-2 小学校6年生の4領域の関係プロフィール)



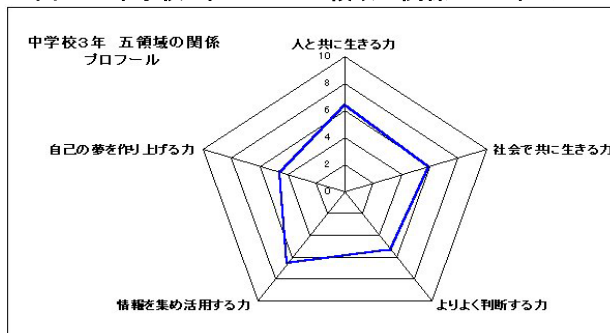
小学校6年生では、図3-7のように「5つの領域」の関係においては、先に示した図3-2の「4領域」の関係と同様に、小学校3年生の得点よりも、得点が下がっている。なかでも、「自己の夢を作り上げる力」「よりよく判断する力」の領域得点が下がっている。しかし、全体的には各領域得点は6得点程度の得点をあげており、ほぼバランスのとれた形ができた。

この段階では、以下のことがみえてきた。

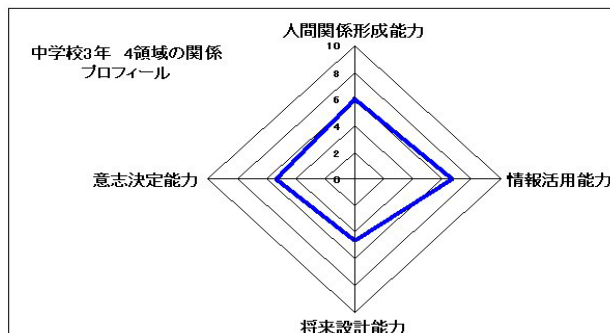
- ・領域の得点は、小学校3年生より低くなっているが、各領域における力は、4領域の場合と変わらずバランスがとれている。
- ・「自己の夢を作り上げる力」の領域の得点が低いことは、自己が形成される過程で、様々な情報や現象に接することで、将来に関する不安などがあらわれてきたのではないかと推測する。

しかし、中学校3年生では、図3-8のように「5

図3-8 中学校3年生の5つの領域の関係プロフィール



(再掲 図3-3 中学校3年生の4領域の関係プロフィール)



つの領域」の関係においては、先に示した図3-3の「4領域」の関係の結果と比べ、形が大幅に崩れた結果となった。なかでも「自己の夢を作り上げる力」の領域の得点が低い。また「人と共に生きる力」「社会で共に生きる力」なども領域の得点も、小学校段階に比べ低い。だが、「情報を集めて活用する力」は、小学校段階より領域の得点が高い。この段階では、以下のことがみえてきた。

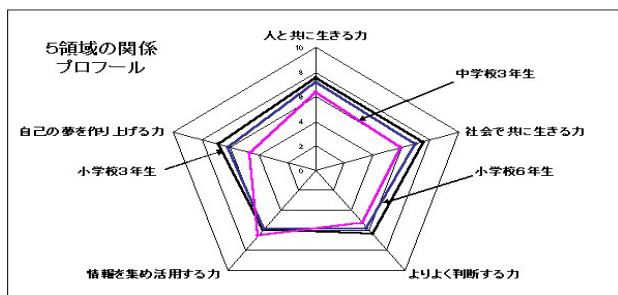
- ・中学校段階に入り、自己形成とともに、まず目先の進路について考え、自己の夢を築くことよりも、高校進学が目の前に浮かんでくるため、「夢よりも現実」と考えがちになっていると推測する。
- ・中学校段階になって、情報機器を使って情報を調べることが多くなったことで、「情報を集めて活用する力」の得点が高くなったと推測する。

そこで、3学年を合わせてみると、図3-9のようになる。この図をみても一目でわかるように、先に示した図3-4のように「4領域」で表したものより持ちがいがわかりやすくみえてきた。

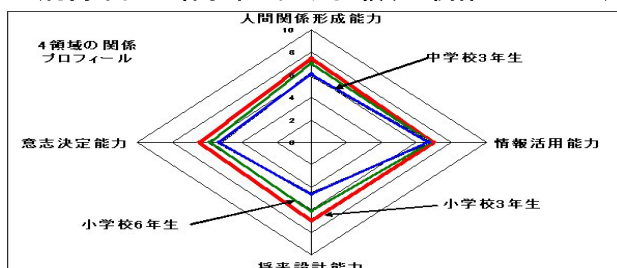
この結果から、以下のことがみえてきた。

- ・小学校3年生から中学校3年生へと学年進行とともに「情報を集めて活用する力」は1得点程度のびている。
- ・小学校3年生から中学校3年生へと学年進行とともに各領域得点が2得点程度低くなっている。
- ・なかでも「自己の夢を作り上げる力」の得点が低い。
- ・中学校3年生は、高校受験などが気になり、「夢」を考える余裕がないのではないかと推測する。

図3-9 3学年の5つの領域の関係プロフィール



(再掲 図3-4 各学年における4領域の関係プロフィール)



「社会で共に生きる力」「よりよく判断する力」「自己の夢を作り上げる力」の4領域の能力は、小学校3年生から中学校3年生へと学年進行とともに、その割合が低くなっている。

この結果から、前項と同様にキャリア教育を小学校段階から取り組むことが、必要であると考えられる。小学校段階から、「勤労観・職業観」をしっかりと身につけさせ、自己の将来展望を築かせることが大切であると考えられる。

第2節 すべての子どもたちの未来を拓く キャリア教育を進めるにあたって

第1章第1節でも述べたが、本市では、様々なキャリア教育の視点にふくんだ取組をおこなってきた。これらの取組は、子どもたち一人一人のキャリア発達や個としての自立を考えた、キャリア教育の視点をふくんだ部分が多いと考える。そして、本市の伝統である「一人一人を徹底して大切にす人権教育」は、一人一人が人権の大切さを理解し、日常生活の中で他の人権を尊重した行動がとれる子どもたちを育ててきた。このことは、子どもたちのキャリア発達において最も基盤となるもので、キャリア教育の視点をふくんだ取組であると考えられる。

しかし、このように様々なキャリア教育の視点をふくんだ活動を取り組んできたにもかかわらず、前章の『意識調査』のように、小学校段階から中学校段階へと学年進行とともに「自己の夢を作り上げる力」「よりよく判断する力」などの力が低くなるという課題がみえてきた。それらの各取

組は、「総合的な学習の時間」「人権教育」など一つ一つに大きな目標をもった取組であった。そして、その取組は子どもたちにとっても、有意義なものであった。しかし、これらの取組は、キャリア教育の視点をふくんだ教育と言い換えることはできるが、キャリア教育そのものを、系統立てて取り組まれたものではない。

また、教職員の『意識調査』(第2章第1節)から、教職員の中には、キャリア教育の内容があまり知られてなく、名前だけが先走り、「必要なのはわかるが、何をどうすればよいのか」がわからないとの考えがあった。そこで、教科指導や進路指導・生徒指導の成果や経験、さらに、他の教職員とアイデアなどを話し合うことが大切である。

また、教職員の『意識調査』にあった様々な意見や要望に書かれているように、「キャリア教育の研修や相談・指導の場所など」の設置など数々の連携を持ちながら進めていく必要がある。

「すべての子どもたちの未来を拓くためのキャリア教育」を進めるにあたって、「生きる力『学習プログラム枠(例)』」をもとに、小・中・高等学校などが一貫性を持ち、系統立ててキャリア教育を進めることが必要だと考える。

また、キャリア教育の範囲と内容は、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間などにおけるすべての教育活動に関わっている。学習指導要領には、キャリア教育に関連する内容・事項が多く記載されている。個々の教育活動が子どもたちの発達段階に応じて、キャリア発達に、どのような役割を果たすのかを明確にしなが、活動相互の関連性や系統性に留意し、わかりやすく教育活動を展開する必要がある。各教科の学習においては、単に教科の「知識」や「技術」を習得するだけのものではなく、「将来の夢の実現」に向けて「興味」「関心」を広げること、自己のキャリア形成にとって重要で意義がある。各教科学習で学んだことが、将来の生活にどのような意味を持っているかを知り、学ぶことの意味や学ぶ喜びを得ることが必要である。そして、一人一人のキャリア発達や個としての自立を考えた、キャリア教育の視点に立った学習は、意義深いと考える。各教科の指導にあたる教職員が、各教科におけるキャリア教育の視点に立った内容と各教科の子どもたちの「生き方」や「将来の夢」とかかわりを、十分に理解し、学習方法を考える必要がある。しかし、子どもたちに「将来の夢」をもたせ、一人一人のキャリア発達や個としての自立を考えさせ

るだけでは、キャリア教育の実現はなされない。まず必要なことは、夢の実現のために、確かな学力の向上、言い換えれば基礎基本をしっかりと身につけさせ、学力を向上させる必要がある。

そこで、前章の『意識調査』の結果を十分にふまえ、前節の『学習プログラム枠(例)』をもとにして一貫性をもった取組にする必要があると考える。キャリア教育を進めるにあたっては、子どもたち一人一人のキャリア発達を支援し、「生きる」とは何か、「働く」とは何かを考え、子どもたちが「将来の夢」を実現していくためには、できるだけ早い段階から、「自己の夢」について考える機会を増やす必要があると考える。

また、一人の人間として必要な資質や能力を高め、将来の自分を描き、自己実現に向けて、豊かな人間性を育てることが大切である。そこで「生き方を考え、生きる力をはぐくむキャリア教育」を進めるにあたって、今までに、すでに取組まれてきた内容も含め、それをさらに充実させ、以下の7点に留意し、キャリア教育を進めることが大切であると考えられる。

①キャリア教育の正しい認識の確立

キャリア教育は、教育活動において、キャリア教育として別の取組を取り入れることではない。子どもたちのキャリア発達に関わる能力や態度を、今までの教育活動の中で様々な関係を考えながら機能させる教育である。

前節で述べた「共生と自立を柱とした5つの領域と17の力」は、各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間などすべての教育活動における目標や指導内容に重なり、深く関わった能力である。従って、各教科・領域の目標や指導内容を、子どもたち一人一人の発達や個としての自立を考える、キャリア教育の視点に立ってみることで、より効果的な学習指導を実現し、学ぶ意味の理解を促進し、将来展望を確かにもてる子どもたちを育てることができる。そして、子どもたちのキャリア発達に向けて発展的に取り組み、発達段階を踏まえ、キャリア教育の定義と意義を正しく押さえ、キャリア発達に関わる能力・態度の到達目標を明確にする。

②豊かな人権感覚の育成

本市教育委員会『指導の重点』の最高目標として「今を生き、次代を拓く力の育成－豊かな人権感覚を育み、個が生きる進路の実現をめざして－

(27)を掲げ、すべての学校が同じ方向で取り組んできた。このことは、キャリア教育が目指す方向と重なる部分が多い。個に応じた指導の徹底を図り、すべての子どもたちに確かな学力の保障と進路の保障をめざす取組は、自己の個性と能力を生かし自己実現を図るための取組である。学校での教育活動の取組は、家庭や集団、地域や社会で、「人と共に生きる力」や「社会で共に生きる力」を育てるための取組である。そこで、子どもたち一人一人が人権の大切さを理解し、日常生活の中で自他の人権を尊重した行動がとれる子どもたちを育てる指導を、徹底することが大切である。

③系統立てたキャリア教育の実施

今日の教育改革で、教育課程編成に関わる学校裁量が校種を問わず広がっている。そして、特色ある学校づくりが推進されている。各学校では、総合的な学習の時間をはじめ、特別活動や中学校の選択教科、高等学校の学校設定教科・科目の実施などが行われ、学校における教育活動がそれぞれ特色あるものになっている。

こうした動きを十分に踏まえ、各学校が裁量部分を活用し、子どもたちの実態や学校・地域の実態に応じ、それぞれの学校に合った特色あるキャリア教育の視点に立った取組をおこなうことが大切である。そして、キャリア教育を、教育課程に位置づけ、学校でのすべての教育活動を通して計画的に系統立てて進めることが大切である。

④個に応じた能力・態度の育成

キャリア教育の目標は、個々のキャリア発達の状況を的確に把握し、個々に留意しながら、個に応じたキャリア発達に必要な、能力や態度を育成することである。それはすべての子どもたちに、同じ能力や態度を育成することではない。子どもたち一人一人には個人差があり、同じペースで同じような発達を遂げるわけではない。キャリア教育は、子どもたち一人一人が、自分の得た能力や態度によって、生きる力を身につけ、生き方を選択することである。そして、キャリア教育を進める上で最も大切にしなければならないことは、一人一人に応じた能力や態度を育成し、キャリア発達をきめ細かく支えていくことである。

⑤将来に向けた学習意欲の向上

キャリア教育は、子どもたちの個々のキャリア発達を支援する教育活動である。「なぜ勉強しな

なければならないのか」「今の学習が夢の実現につながるのか」などを考えることで、日々の学習に対する意欲や態度が変わる。そして、新たな発見や自覚が生まれる。その発見や自覚を支援するのがキャリア教育だと考える。そして「自分の人生」「将来の夢」「働くこと」などへの関心・意欲を高め、学習意欲を向上させるための、学習活動を進めることが大切である。子どもたちが、将来社会人として自立するための力を、身につけさせるために、学習意欲を向上させ、確かな学力をつけさせること、言い換えれば基礎基本をしっかりと身につけさせることが大切である。

⑥家庭・地域との連携

キャリア教育は、キャリア形成のための知識や技能だけを教える教育ではない。子どもたちは、様々な体験活動などを通して、将来の夢の実現に向けた関心や意欲を持つことができる。そこで、子どもたちが、将来の夢を描き、自らの力で切り拓いていくには、家庭や地域とともに、地域ぐるみで取り組むことが、子どもたちが将来の生き方を考える上で大切である。身近な社会である家庭や地域は、子どもたちの重要な学習と体験の場である。

今学校、家庭、地域に求められているのは、地域ぐるみで子どもたちの豊かな育ちを実現することである。そして、家庭、地域、企業、関係機関などと連携して、子どもたちを、社会人として自立させることが大切である。

⑦キャリア教育に関する教職員研修の充実

協力者会議報告書には、キャリア教育を進める上で、教職員の実践力について「本質的理解と認識を確立するなど資質向上が不可欠である」(28)と書かれている。キャリア教育を効果的に進めていくためには、教職員の実践力を高めるような研修が必要である。また、キャリア教育を進め、学校の教育活動に定着させるには、様々な研修会・情報提供の場や相談の場などが必要である。

しかし、キャリア教育に関する理解や認識がないからできないということではない。カリキュラムなどの開発は、日頃の教育活動を通じて培われるものである。各学校では自校のカリキュラムなどを開発し、具体的に進めることを通じて教職員のキャリア教育への理解や認識を深めることができる。

以上の7点に留意し、小・中・高等学校が一貫して系統性をもたせ、連携をとりながら進めて行

く必要があると考える。

(27) 前掲(15) 表紙

(28) 前掲(5) p. 28

おわりに

働くことには、報酬を得て生計を維持することだけでなく、体を動かして汗する苦労や厳しさを通してしか味わえない達成感や喜びもある。さらに、働くことには、人として社会に参画し、社会を支えるとともに豊かな人権感覚を養うことができる。こうした、働くことについて、子どもたちに学ばせることは意義があると思う。また、学校や家庭、地域や社会がどのように子どもたちに向き合い、関わっていくかを考えることも大切である。子どもたちにとって親や学校の教職員はもちろん、多くの大人が人生の中で「何を考え、どう生きてきたか」などについて語ることが大切である。そのためには、自分自身の「生き方」を考え、自己を見直すことも大切である。

今後、本市が具体的に学校でキャリア教育を推進して行くには、先に出された本市「生き方探究教育」や本研究の結果をふまえ、取組をおこなう必要がある。そして、具体的な取組をおこなうために、先に述べた、以下の7点に留意することも大切である。

- ①キャリア教育の正しい認識の確立
- ②豊かな人権感覚の育成
- ③系統立てたキャリア教育の実施
- ④個に応じた能力・態度の育成
- ⑤将来に向けた学習意欲の向上
- ⑥家庭・地域との連携
- ⑦キャリア教育に関する教職員研修の充実

また、「キャリア教育の全体計画案、カリキュラム案・指導計画案」および「キャリア教育に関する研修、啓発のための様々な施策」「キャリア教育の相談・指導の場所」などが必要と考える。

今後、こうした取組を推進していくとともに、キャリア教育をどのようにして、子どもたちに働きかけていくかが、大きな課題である。キャリア教育は、これまでに取り組んできた教育活動において、キャリア教育の視点を意識することで、これまでになかった効果が期待できると考える。

キャリア教育の推進は、はじまったばかりで、多くの課題が山積みである。すべての子どもたちの未来を拓くために、今後キャリア教育が発展し、定着した教育活動にしなければと考える。

最後に、調査にご協力いただいた教職員の方々や、児童生徒の皆さんに感謝したい。

付表2 基礎集計表 (子どもたちの意識調査)

調査事項	サンプル数	学年別			調査事項	サンプル数	学年別						
		小学生		中学生			小学生		中学生				
		3年生	6年生	3年生			3年生	6年生	中学生				
	人数	人数	人数	人数	人数	人数							
1 あなたは、たまたま友達が多いですか	1 たまたま友達が多い	841	68.8%	600	53.4%	585	43.3%	291	23.8%	363	32.3%	465	34.4%
	2 どちらかといえば友達が多いほうだ	291	23.8%	406	36.2%	556	41.1%	356	29.1%	460	41.0%	533	39.4%
2 あなたは、話し合いたくありませんか	1 自分で進んで発表する	287	23.5%	265	23.6%	225	16.6%	157	12.8%	147	13.1%	208	15.4%
	2 とどきき発表する	590	48.2%	513	45.7%	516	38.2%	241	19.7%	415	37.0%	278	20.6%
3 あなたは、お家の人・先生や友だちからのアドバイスやよきお話を聞きますか	1 積極的にあいさつしたり話しかけたりする	541	44.2%	367	32.7%	344	25.4%	194	15.5%	257	22.9%	314	23.2%
	2 ときには聞く	579	47.3%	682	60.7%	804	59.5%	491	39.2%	349	31.1%	484	35.8%
4 あなたは、だれでも自分からあいさつしたり、話しかけたりしますか	1 積極的にあいさつしたり話しかけたりする	541	44.2%	367	32.7%	344	25.4%	194	15.5%	257	22.9%	314	23.2%
	2 ときには聞く	579	47.3%	682	60.7%	804	59.5%	491	39.2%	349	31.1%	484	35.8%
5 あなたは、みんなと仲良く遊ぶことができますか	1 積極的にあいさつしたり話しかけたりする	541	44.2%	367	32.7%	344	25.4%	194	15.5%	257	22.9%	314	23.2%
	2 ときには聞く	579	47.3%	682	60.7%	804	59.5%	491	39.2%	349	31.1%	484	35.8%
6 あなたは、いろいろな国の人々と友達になりたいですか	1 積極的にあいさつしたり話しかけたりする	541	44.2%	367	32.7%	344	25.4%	194	15.5%	257	22.9%	314	23.2%
	2 ときには聞く	579	47.3%	682	60.7%	804	59.5%	491	39.2%	349	31.1%	484	35.8%
7 あなたは、いろいろな国の言葉を話してみたいですか	1 積極的にあいさつしたり話しかけたりする	541	44.2%	367	32.7%	344	25.4%	194	15.5%	257	22.9%	314	23.2%
	2 ときには聞く	579	47.3%	682	60.7%	804	59.5%	491	39.2%	349	31.1%	484	35.8%
8 あなたは、行ってみたい国がありますか	1 積極的にあいさつしたり話しかけたりする	541	44.2%	367	32.7%	344	25.4%	194	15.5%	257	22.9%	314	23.2%
	2 ときには聞く	579	47.3%	682	60.7%	804	59.5%	491	39.2%	349	31.1%	484	35.8%
9 あなたは、住んでいる所の行事やイベント(注活動)に参加していますか	1 積極的にあいさつしたり話しかけたりする	541	44.2%	367	32.7%	344	25.4%	194	15.5%	257	22.9%	314	23.2%
	2 ときには聞く	579	47.3%	682	60.7%	804	59.5%	491	39.2%	349	31.1%	484	35.8%
10 あなたは、住んでいる所の歴史的な場所や物・産業・伝統に興味がありますか	1 積極的にあいさつしたり話しかけたりする	541	44.2%	367	32.7%	344	25.4%	194	15.5%	257	22.9%	314	23.2%
	2 ときには聞く	579	47.3%	682	60.7%	804	59.5%	491	39.2%	349	31.1%	484	35.8%
11 あなたは、毎日の生活が楽しいですか	1 積極的にあいさつしたり話しかけたりする	541	44.2%	367	32.7%	344	25.4%	194	15.5%	257	22.9%	314	23.2%
	2 ときには聞く	579	47.3%	682	60.7%	804	59.5%	491	39.2%	349	31.1%	484	35.8%
12 あなたは、おわせない人とのほうが好きですか	1 積極的にあいさつしたり話しかけたりする	541	44.2%	367	32.7%	344	25.4%	194	15.5%	257	22.9%	314	23.2%
	2 ときには聞く	579	47.3%	682	60.7%	804	59.5%	491	39.2%	349	31.1%	484	35.8%
13 あなたは、まわりの人に協力しますか	1 積極的にあいさつしたり話しかけたりする	541	44.2%	367	32.7%	344	25.4%	194	15.5%	257	22.9%	314	23.2%
	2 ときには聞く	579	47.3%	682	60.7%	804	59.5%	491	39.2%	349	31.1%	484	35.8%
14 あなたは、家族みんなと話をしていますか	1 積極的にあいさつしたり話しかけたりする	541	44.2%	367	32.7%	344	25.4%	194	15.5%	257	22.9%	314	23.2%
	2 ときには聞く	579	47.3%	682	60.7%	804	59.5%	491	39.2%	349	31.1%	484	35.8%
15 あなたは、家の人の仕事を知っていますか	1 積極的にあいさつしたり話しかけたりする	541	44.2%	367	32.7%	344	25.4%	194	15.5%	257	22.9%	314	23.2%
	2 ときには聞く	579	47.3%	682	60.7%	804	59.5%	491	39.2%	349	31.1%	484	35.8%
16 あなたは、家族と出かけることがありますか	1 積極的にあいさつしたり話しかけたりする	541	44.2%	367	32.7%	344	25.4%	194	15.5%	257	22.9%	314	23.2%
	2 ときには聞く	579	47.3%	682	60.7%	804	59.5%	491	39.2%	349	31.1%	484	35.8%
17 あなたは、テレビや新聞などのニュースを見ているですか	1 積極的にあいさつしたり話しかけたりする	541	44.2%	367	32.7%	344	25.4%	194	15.5%	257	22.9%	314	23.2%
	2 ときには聞く	579	47.3%	682	60.7%	804	59.5%	491	39.2%	349	31.1%	484	35.8%
18 あなたは、流行や新しいものや興味がありますか	1 積極的にあいさつしたり話しかけたりする	541	44.2%	367	32.7%	344	25.4%	194	15.5%	257	22.9%	314	23.2%
	2 ときには聞く	579	47.3%	682	60.7%	804	59.5%	491	39.2%	349	31.1%	484	35.8%
19 あなたは、社会の出来事に対して疑問を持っていますか	1 積極的にあいさつしたり話しかけたりする	541	44.2%	367	32.7%	344	25.4%	194	15.5%	257	22.9%	314	23.2%
	2 ときには聞く	579	47.3%	682	60.7%	804	59.5%	491	39.2%	349	31.1%	484	35.8%
20 あなたは、知っている仕事(職業)のどこに詳しい説明ができますか	1 積極的にあいさつしたり話しかけたりする	541	44.2%	367	32.7%	344	25.4%	194	15.5%	257	22.9%	314	23.2%
	2 ときには聞く	579	47.3%	682	60.7%	804	59.5%	491	39.2%	349	31.1%	484	35.8%
21 あなたは、(今まで)学んだことや体験したこと、生活に関わっていますか	1 積極的にあいさつしたり話しかけたりする	541	44.2%	367	32.7%	344	25.4%	194	15.5%	257	22.9%	314	23.2%
	2 ときには聞く	579	47.3%	682	60.7%	804	59.5%	491	39.2%	349	31.1%	484	35.8%
22 あなたは、情報機器(コンピュータや携帯電話など)に興味がありますか	1 積極的にあいさつしたり話しかけたりする	541	44.2%	367	32.7%	344	25.4%	194	15.5%	257	22.9%	314	23.2%
	2 ときには聞く	579	47.3%	682	60.7%	804	59.5%	491	39.2%	349	31.1%	484	35.8%
23 あなたは、コンピュータなどを使っていろいろなことを調べることができますか	1 積極的にあいさつしたり話しかけたりする	541	44.2%	367	32.7%	344	25.4%	194	15.5%	257	22.9%	314	23.2%
	2 ときには聞く	579	47.3%	682	60.7%	804	59.5%	491	39.2%	349	31.1%	484	35.8%
24 あなたは、仕事を増減と何を1番基準にすると思いますか	1 積極的にあいさつしたり話しかけたりする	541	44.2%	367	32.7%	344	25.4%	194	15.5%	257	22.9%	314	23.2%
	2 ときには聞く	579	47.3%	682	60.7%	804	59.5%	491	39.2%	349	31.1%	484	35.8%
25 あなたは、今通っている学校を卒業した後、どこまで勉強したいですか	1 積極的にあいさつしたり話しかけたりする	541	44.2%	367	32.7%	344	25.4%	194	15.5%	257	22.9%	314	23.2%
	2 ときには聞く	579	47.3%	682	60.7%	804	59.5%	491	39.2%	349	31.1%	484	35.8%
26 あなたは、将来の夢を持っていますか	1 積極的にあいさつしたり話しかけたりする	541	44.2%	367	32.7%	344	25.4%	194	15.5%	257	22.9%	314	23.2%
	2 ときには聞く	579	47.3%	682	60.7%	804	59.5%	491	39.2%	349	31.1%	484	35.8%
27 あなたは、勉強でも遊びでも計画を立て、その計画に実行していますか	1 積極的にあいさつしたり話しかけたりする	541	44.2%	367	32.7%	344	25.4%	194	15.5%	257	22.9%	314	23.2%
	2 ときには聞く	579	47.3%	682	60.7%	804	59.5%	491	39.2%	349	31.1%	484	35.8%
28 あなたは、興味があることに熱心しますか	1 積極的にあいさつしたり話しかけたりする	541	44.2%	367	32.7%	344	25.4%	194	15.5%	257	22.9%	314	23.2%
	2 ときには聞く	579	47.3%	682	60.7%	804	59.5%	491	39.2%	349	31.1%	484	35.8%
29 あなたは、将来どのような仕事につきたいですか	1 積極的にあいさつしたり話しかけたりする	541	44.2%	367	32.7%	344	25.4%	194	15.5%	257	22.9%	314	23.2%
	2 ときには聞く	579	47.3%	682	60.7%	804	59.5%	491	39.2%	349	31.1%	484	35.8%
30 あなたは、今思いがけずお金がたくらふたら将来どうしますか	1 積極的にあいさつしたり話しかけたりする	541	44.2%	367	32.7%	344	25.4%	194	15.5%	257	22.9%	314	23.2%
	2 ときには聞く	579	47.3%	682	60.7%	804	59.5%	491	39.2%	349	31.1%	484	35.8%
31 あなたは、今自分の将来の夢を実現するために努力していますか	1 積極的にあいさつしたり話しかけたりする	541	44.2%	367	32.7%	344	25.4%	194	15.5%	257	22.9%	314	23.2%
	2 ときには聞く	579	47.3%	682	60.7%	804	59.5%	491	39.2%	349	31.1%	484	35.8%
32 あなたは、家で勉強をしていますか	1 積極的にあいさつしたり話しかけたりする	541	44.2%	367	32.7%	344	25.4%	194	15.5%	257	22.9%	314	23.2%
	2 ときには聞く	579	47.3%	682	60.7%	804	59.5%	491	39.2%	349	31.1%	484	35.8%
33 あなたは、今朝始めていることが将来得意に立つと思えますか	1 積極的にあいさつしたり話しかけたりする	541	44.2%	367	32.7%	344	25.4%	194	15.5%	257	22.9%	314	23.2%
	2 ときには聞く	579	47.3%	682	60.7%	804	59.5%	491	39.2%	349	31.1%	484	35.8%
34 あなたは、何かを決めるときに一人で決めようと思えますか	1 積極的にあいさつしたり話しかけたりする	541	44.2%	367	32.7%	344	25.4%	194	15.5%	257	22.9%	314	23.2%
	2 ときには聞く	579	47.3%	682	60.7%	804	59.5%	491	39.2%	349	31.1%	484	35.8%
35 あなたは、仕事を増減と何を1番基準にすると思いますか	1 積極的にあいさつしたり話しかけたりする	541	44.2%	367	32.7%	344	25.4%	194	15.5%	257	22.9%	314	23.2%
	2 ときには聞く	579	47.3%	682	60.7%	804	59.5%	491	39.2%	349	31.1%	484	35.8%
36 あなたは、将来仕事についてどう思いますか	1 積極的にあいさつしたり話しかけたりする	541	44.2%	367	32.7%	344	25.4%	194	15.5%	257	22.9%	314	23.2%
	2 ときには聞く	579	47.3%	682	60.7%	804	59.5%	491	39.2%	349	31.1%	484	35.8%
37 あなたは、失敗したときにどう思いますか	1 積極的にあいさつしたり話しかけたりする	541	44.2%	367	32.7%	344	25.4%	194	15.5%	257	22.9%	314	23.2%
	2 ときには聞く	579	47.3%	682	60.7%	804	59.5%	491	39.2%	349	31.1%	484	35.8%
38 あなたは、ものやサービス、調べたいことについてどう思いますか	1 積極的にあいさつしたり話しかけたりする	541	44.2%	367	32.7%	344	25.4%	194	15.5%	257	22.9%	314	23.2%
	2 ときには聞く	579	47.3%	682	60.7%	804	59.5%	491	39.2%	349	31.1%	484	35.8%
39 あなたは、ふだんの生活で「不思議だな」と思ったり驚いたりしますか	1 積極的にあいさつしたり話しかけたりする	541	44.2%	367	32.7%	344	25.4%	194	15.5%	257	22.9%	314	23.2%
	2 ときには聞く	579	47.3%	682	60.7%	804	59.5%	491	39.2%	349	31.1%	484	35.8%
40 あなたは、悩んでいたり、解決しない問題や課題が、相談しづらいと感じませんか	1 積極的にあいさつしたり話しかけたりする	541	44.2%	367	32.7%	344	25.4%	194	15.5%	257	22.9%	314	23.2%
	2 ときには聞く	579	47.3%	682	60.7%	804	59.5%	491	39.2%	349	31.1%	484	35.8%
41 あなたは、中学生になったらどう思いますか	1 積極的にあいさつしたり話しかけたりする	541	44.2%	367	32.7%	344	25.4%	194	15.5%	257	22.9%	314	23.2%
	2 ときには聞く	579	47.3%	682	60.7%	804	59.5%	491	39.2%	349	31.1%	484	35.8%

注) 結果数値(%)は表

付表3 基礎集計表（教職員の意識調査）

調査事項	サンプル数	校種別		調査事項	サンプル数	校種別		
		小学校	中学校			小学校	中学校	
		人数	人数			人数	人数	
あなたは、「児童生徒一人一人の勤労観・職業観を育てる教育」であるキャリア教育の内容についてご存じですか。	316	37	34	209%	219	69.3%	103	63.2%
あなたは、文部科学省や各教育委員会がキャリア教育を推進していることを知っていますか。	316	103	64	39.3%	23	4.0%	8	7.8%
今あなたは、キャリア教育が必要だと思いますか。	316	124	44	27.0%	66	11.4%	32	31.1%
問3で①・②とお答えになられた方にお聞きします。 ＊必要だと思われる理由がございましたらお書きください。	316	52	21	12.9%	190	32.8%	52	50.5%
問3で③・④・⑤とお答えになられた方にお聞きします。 ＊必要ない・わからないと思われる理由は何ですか。	316	72	60	36.8%	10	1.7%	3	2.9%
あなたは、キャリア教育を実施するに当たってどの時期からが適切だと思いますか。	316	100	53	32.5%	15	2.6%	6	5.8%
あなたは、キャリア教育の内容はどのようなものがよいと思いますか。（複数回答可）	316	96	32	19.6%	11	1.9%	5	4.9%
あなたが、キャリア教育を推進するにあたって望まれる事は何でしょうか。（複数回答可）	316	48	18	11.0%	14	2.4%	7	6.8%
Ⅲ. キャリア教育についてご意見・ご質問・ご感想がございましたらお書きください。	316	0	0	0.0%	11	5.0%	5	4.9%

注）結果数値（％）は表章単位未満を四捨五入してあるので、設問ごとの合計が100%にならないことがある。

付表4 教職員の意識調査設問紙

問1 あなたは、「児童生徒一人一人の勤労観・職業観を育てる教育」であるキャリア教育の内容について存じですか。

問2 あなたは、文部科学省や各教育委員会がキャリア教育を推進していることを知っていますか。

問3 あなたは、キャリア教育が必要だと思いますか。

問4 問3で①・②とお答えになられた方にお聞きします。
＊必要だと思われる理由がございましたらお書きください。

問5 問3で③・④・⑤とお答えになられた方にお聞きします。
＊必要ない・わからないと思われる理由は何ですか。

問6 あなたは、キャリア教育を実施するに当たってどの時期からが適切だと思いますか。

問7 あなたは、キャリア教育の内容はどのようなものがよいと思いますか。（複数回答可）

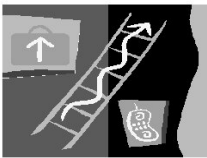
問8 あなたは、キャリア教育を推進するにあたって望まれる事は何でしょうか。（複数回答可）

Ⅲ. キャリア教育についてご意見・ご質問・ご感想がございましたらお書きください。

問9 あなたは、キャリア教育を進められたらどの教科・領域がよいと思いますか。（複数回答可）

問10 あなたは、キャリア教育を推進するにあたって望まれる事は何でしょうか。（複数回答可）

付表5 子どもたちの意識調査設問紙

<div style="text-align: center;"> <table border="1" style="margin: 0 auto; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">校種</td><td style="padding: 2px;">学年</td><td style="padding: 2px;">学校</td><td style="padding: 2px;">性別</td> </tr> <tr> <td style="width: 20px; height: 20px;"></td><td style="width: 20px; height: 20px;"></td><td style="width: 20px; height: 20px;"></td><td style="width: 20px; height: 20px;"></td> </tr> </table> <p style="font-size: small;">(ここを書かなくてください)</p> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> <p>勤労観・職業観についての意識調査</p> <p>調査のお願いとやり方</p> </div> <p>① これはテストではありません。あなたの、希望や将来の夢を思い出して、そのときのようすや気持ちを、ありのまま書いてください。</p> <p>② 質問には、選択肢の中から当てはまるものを二つだけ選んで、その番号を記入してください。</p> <p>③ 答えに迷う質問・答えが2つ以上あてはまるような場合やひたたりとあてはまる答えがない場合は、今のあなたの感じに、一番近いものを選び、必ずすべての質問に答えてください。</p> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  </div> <p>◆ あなたの学校名と、学年を書いてください。</p> <p style="font-size: small;">東京都立 <input style="width: 50px;" type="text"/> 小・中学校 第 <input style="width: 20px;" type="text"/> 学年 男・女</p>	校種	学年	学校	性別					<p>問1 あなたは、たくさんの友だちですか。</p> <p>1 たくさん友だちがいる <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>2 どちらかといえば友だちがいるほうだ <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>3 どちらかといえば友だちは少ないほうだ <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>4 あまり友だちはいない <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>問2 あなたは、話し合いでは進んで発表しますか。</p> <p>1 自分から進んで発表する <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>2 ときどき発表する <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>3 あてられれば発表する <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>4 あまり発表はしない <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>問3 あなたは、お家の人・先生や友だちからのアドバイスをすなおに聞き取りますか。</p> <p>1 すなおに聞く <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>2 だいたい聞く <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>3 アドバイスは聞くが考えは変えない <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>4 あまり聞かない <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>問4 あなたは、だれにでも自分からあいさつしたり、話しかけたりしますか。</p> <p>1 積極的にあいさつしたり話しかけたりする <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>2 するときもある <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>3 あいさつだけする <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>4 あまりしない <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>問5 あなたは、みんなと仲よく遊ぶですか。</p> <p>1 だれとでも仲よく遊ぶ <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>2 知っている友だちなら仲よく遊ぶ <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>3 仲のよい友だちと仲よく遊ぶ <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>4 あまり遊ばない <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>問6 あなたは、いろいろな国の人々と友だちになりたいですか。</p> <p>1 たくさん人と友だちになりたい <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>2 たくさんでなくてもいい友だちになりたい <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>3 友だちにはなりたいたいかなれない自信がない <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>4 あまり友だちになりたいたくない <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>問7 あなたは、いろいろな国の言葉を話してみたいですか。</p> <p>1 ぜひ話してみたい <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>2 どちらかといえば話してみたい <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>3 どちらかといえば話したくない <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>4 あまり話したくない <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>問8 あなたは、行ってみたい国がありますか。</p> <p>1 たくさんの国へ行ってみたい <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>2 行ってみたい国はいくつかある <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>3 行ってみたい国が少しある <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>4 あまり行きたくない <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>問9 あなたは、住んでいる所の行事やボランティア活動に参加していますか。</p> <p>1 進んで参加している <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>2 ときどき参加している <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>3 どちらかといえば参加している <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>4 あまり参加していない <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>問10 あなたは、住んでいる所の歴史的な場所や物・産業・伝統に興味がありますか。</p> <p>1 大変興味がある <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>2 どちらかといえば興味がある <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>3 どちらかといえば興味がない <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>4 あまり興味はない <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>問11 あなたは、毎日の生活が楽しいですか。</p> <p>1 とても楽しい <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>2 どちらかといえば楽しい <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>3 どちらかといえば楽しくない <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>4 あまり楽しくない <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>問12 あなたは、おうちの人の人いるのが好きですか。</p> <p>1 大好きだ <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>2 どちらかといえば好きだ <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>3 どちらかといえば好きではない <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>4 あまり好きではない <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>問13 あなたは、まわりの人に協力しますか。</p> <p>1 協力する <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>2 ときどき協力する <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>3 どちらかといえば協力しない <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>4 あまり協力しない <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>問14 あなたは、家族みんなと話をしていますか。</p> <p>1 毎日話をする <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>2 ときどき話をする <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>3 どちらかといえば話さない <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>4 あまり話さない <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>問15 あなたは、家族の人の仕事を知っていますか。</p> <p>1 仕事の内容まで知っている <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>2 仕事の名称は知っている <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>3 あまり知らない <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>4 知らない <input style="width: 30px;" type="text"/></p>
校種	学年	学校	性別						
<p>問16 あなたは、家族と出かけることがありますか。</p> <p>1 よく出かける <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>2 ときどき出かける <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>3 どちらかといえば出かける <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>4 あまり出かける <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>問17 あなたは、テレビや新聞などのニュースを見ますか。</p> <p>1 いつも見ている <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>2 ときどき見ている <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>3 どちらかといえば見ていない <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>4 あまり見ていない <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>問18 あなたは、流行や新しいものに興味がありますか。</p> <p>1 大変興味がある <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>2 どちらかといえば興味がある <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>3 どちらかといえば興味がない <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>4 あまり興味はない <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>問19 あなたは、社会の出来事に対して疑問を持つ方ですか。</p> <p>1 いつも疑問を持っている <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>2 ときどき疑問を持つ <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>3 どちらかといえば疑問に思わない <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>4 あまり疑問に思わない <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>問20 あなたは、知っている仕事(職業)のことで詳しい説明ができますか。</p> <p>1 どのような仕事か、内容まで説明できる <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>2 少しは説明できる <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>3 仕事(職業)の名称だけ言える <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>4 あまり説明できない <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>問21 あなたは、いままで学んだことや体験したことが、生かすのに使っていますか。</p> <p>1 とても役に立っている <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>2 どちらかといえば役に立っている <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>3 どちらかといえば役に立っていない <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>4 あまり役に立っていない <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>問22 あなたは、情報機器(コンピュータや携帯電話など)に興味がありますか。</p> <p>1 大変興味がある <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>2 興味がある <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>3 少し興味がある <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>4 あまり興味がない <input style="width: 30px;" type="text"/></p>	<p>問23 あなたは、コンピュータなどを使っているいろいろなことを調べることができますか。</p> <p>1 くわしく調べることができる <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>2 調べることができる <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>3 少しは調べることができる <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>4 あまり調べることができない <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>問24 あなたは、仕事を選ぶとき何を一番基準にしますか。</p> <p>1 お金をもうけること <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>2 夢をかなえること <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>3 ただ生活すること <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>4 好きなことをすること <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>5 社会の役にたつこと <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>6 自分の力をいかすこと <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>7 わからない <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>問25 あなたは今通っている学校を卒業した後、どこまで勉強したいですか。</p> <p>1 中学校卒業まで <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>2 高等学校卒業まで <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>3 短期大学・専門学校卒業まで <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>4 大学・大学院卒業まで <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>5 わからない <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>問26 あなたは、将来の夢を持っていますか。</p> <p>1 はっきりした夢を持っている <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>2 おこがれている夢がある <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>3 夢をさがしているところである <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>4 あまり夢を持っていない <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>5 わからない <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>問27 あなたは、勉強でも遊びでも計画を立て、その通りに実行していますか。</p> <p>1 実行している <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>2 ときどき実行している <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>3 少し実行している <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>4 計画は立てるが実行していない <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>5 あまり計画もたてないし実行もしない <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>問28 あなたは、興味のあることには集中する方だと思いますか。</p> <p>1 すごく集中する <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>2 どちらかといえば集中する <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>3 どちらかといえば集中しない <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>4 あまり集中しない <input style="width: 30px;" type="text"/></p>								
<p>問29 あなたは、将来どのような仕事につきたいですか。</p> <p>1 人や社会のためになる仕事 <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>2 お金ももうかる仕事 <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>3 楽な仕事 <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>4 自分の才能をいかす仕事 <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>5 仕事したくない <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>6 わからない <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>問30 あなたは、今思っているお金のたくさん入ったら将来どうしますか。</p> <p>1 儲かずに返してあげる <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>2 好きなことややりたいことにつかう <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>3 旅行や贈り物などにあつづける <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>4 人のために使っている <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>5 わからない <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>問31 あなたは、今自分の将来の夢を達成させるために努力していますか。</p> <p>1 努力している <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>2 ときどき努力している <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>3 どちらかといえば努力していない <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>4 あまり努力していない <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>問32 あなたは、家で勉強をしていますか。</p> <p>1 毎日している <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>2 ときどきしている <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>3 どちらかといえばしていない <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>4 あまりしていない <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>問33 あなたは、今勉強していることが将来役に立つと思いますか。</p> <p>1 きっと役に立つと思う <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>2 どちらかといえば役に立つと思う <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>3 どちらかといえば役に立たないと思う <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>4 あまり役に立たないと思う <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>5 わからない <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>問34 あなたは、何かを運動のときと1人で決めることができる方ですか。</p> <p>1 決めることができる <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>2 だいたい決めることができる <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>3 どちらかといえば決まらぬ <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>4 あまり決まらぬ <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>問35 あなたは、仕事を選ぶとき何をヒントにしたと思いますか。</p> <p>1 お家の人や先生など大人の話 <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>2 テレビ・新聞・インターネット・本など <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>3 友だちなど同世代の話 <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>4 自分の考え・ヒントはいらない <input style="width: 30px;" type="text"/></p>	<p>問36 あなたは、将来仕事につくことについて心配なことがありますか。</p> <p>1 たくさんある <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>2 どちらかといえばある <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>3 どちらかといえばない <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>4 あまりない <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>問37 あなたは、失敗したらすぐにあきらめる方ですか。</p> <p>1 すぐにあきらめる方だ <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>2 たいたいあきらめる方だ <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>3 あまりあきらめる方だ <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>4 絶対にあきらめる方だ <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>問38 あなたは、ものを作ったり、調べたりすることが好きですか。</p> <p>1 大好き <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>2 どちらかといえば好き <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>3 どちらかといえば好きではない <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>4 あまり好きではない <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>問39 あなたは、ふだんの生活で「不思議だな」「すごいな」と思うことがありますか。</p> <p>1 よく思う <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>2 ときどき思う <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>3 どちらかといえば思わない <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>4 あまり思わない <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>問40 あなたは、悩み・不安などを解決するとき誰かに相談しますか。</p> <p>1 お家の人や先生など大人に相談する <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>2 友だちなどに相談する <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>3 相談せずに、自分で解決する <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>4 相談せずに、そのまましておく <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>問41 中学生のめがねをください</p> <p>問41 あなたは、中学生ぶついでに行った、生き方探究・チャレンジ体験で職業(仕事)について理解が深まりましたか。</p> <p>1 大変ふくらんだ <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>2 どちらかといえばふくらんだ <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>3 どちらかといえばふくらまなかった <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p>4 あまり理解がふくらまなかった <input style="width: 30px;" type="text"/></p> <p style="font-size: x-small;">*これで、終わりです。回答が適切でないところがないか、見直してください。ありがとうございました。</p>								

付表6 生き方を考え、生きる力をはぐくむキャリア教育の学習プログラムの枠組み(例)

地域や社会との関わりの中で生き方を考え、生きる力をはぐくむキャリア教育							
自ら学び、自らが意志決定して行動する力は、生きる力(人間力)を形成するキャリア教育を考える上で重要である。そこで、一人の人間としての生き方を見つめさせ、自己の現在及び将来の生き方を考えながら、各発達段階において達成すべき課題を、進路・職業の選択能力及び将来の職業人として必要な資質の形成という観点から捉え直す。							
キャリア発達にかかわる力	キャリア発達の時期	小学校			中学校	高等学校	
		1・2年生	3・4年生	5・6年生	職業に対する現実的探索の時期	職業観の確立と社会への移行の時期	
目標		* 楽しく遊ぶことから自分のできることをさがす		* 自分の役割に興味を持つ	* 自己を認め、将来の夢のイメージをつくる * 働くことの大切さや苦労や喜びを知る	* 自分自身の将来の夢や課題を見つけ、職場体験に取り組み、将来の夢や職業についての関心・意欲を高める	
領域	発達にかかわる力	各段階における発達のイメージ例 具体的な活動例					
人間関係形成能力	【自分と他者を理解する力】	○友だちと仲よく遊ぶ ○遊ぶことにより友だちをつくる ☆いろいろな遊びをする	○友だちと仲よく遊び助け合おう ○友だちの良さを見つけよう ☆みんなゲームをする	○友達と互いに理解し、信頼し助け合おう ○相手のことを思いやり、感謝の気持ちを持つ ☆班活動などで気分がなかった友だちの姿を発見する	○話し合いなどに積極的に参加しよう ○自他の権利を大切にしながら進んで義務を果たそう ☆児童会活動へ参加する	○個性を理解しお互いを尊重し、他者の長所や感情を理解しよう ○自分の言動が相手に影響することを理解しよう ☆生徒会活動などに積極的に関わる ☆様々な行事で他者と意見交換をする(文化祭・他)	○自己の職業的な能力や適性を知り、それを伸ばそう ○他者の価値観や個性を理解し、考えを広げよう ☆事業所や上級学校見学をして、適性を考える ☆様々な行事で他者と意見交換をする(文化祭・他)
	【コミュニケーションを豊かにする力】	○あいさつや返事は大きな声でしよう ☆自分からあいさつをする ☆友だちと話をしよう	○元気よくあいさつや返事をしよう ○自分から周囲の人に関わりを持つ ☆園・学校の行事に参加する	○明るい心で元気よく親身に接しよう ○友達と協力しよう ☆友だちと話をしよう ☆縦割り活動で友だちと楽しく行動しよう ☆学級・学校の行事に参加する ☆学級委員や班長になる	○相手の立場に立って考え行動しよう ○他学年の児童との活動に楽しんで参加しよう ☆学級・学校の行事に参加する ☆学級委員や班長になる ☆学級活動で他学年の児童と楽しく行動しよう	○積極的に人間関係を築かせ、大切さを理解しよう ○礼儀正しいあいさつとマナーや社会常識を理解しよう ☆生き方探究・チャレンジ学習で適切な言葉や挨拶を学習しよう ☆フィナンシャルパークに参加する ☆キャリアセミナーに参加する	☆時・場所に応じたコミュニケーションを図ろう ☆自己の思いや意見を適切に効果的に伝え、他者の意志を知ろう ☆様々な場面で異なる年齢の人と接し、自分の役割を考える ☆インターンシップに参加する ☆キャリアセミナーに参加する
	【世界に視野を広げる力】	○絵本や絵地図・写真などを見て楽しもう ☆絵地図や絵本を見る ☆外国語で書かれた絵本などに慣れてみる	○いろいろな国の言葉にふれよう ☆日本のおとりの国について知ろう ☆いろいろな国の言葉を使ってみよう	○日本のおとりの国について知ろう ○いろいろな国の言葉を使ってみよう ☆地図やビデオ教材を見る	○世界にはたくさんの国があることを知ろう ○いろいろな国の言葉を使ってみよう ☆ゲームを通して外国語に親しむ ☆世界地図や地球儀を見る	○メディアなどを通して世界のことを知ろう ○いろいろな国の言葉を使って他の国の人々に話しかけよう ☆ゲームを通して外国語に親しむ ☆世界地図や地球儀を見る ☆AICTを話す	○メディアなどで得た世界の情勢を的確に理解しよう ○いろいろな国の言葉を使っているいろいろな国の人々とコミュニケーションをとろう ☆メディアなどを通して積極的に世界の情報を得る ☆たくさんの外国の人々と話す
社会で共に生きる力	【地域と共に生きる力】	○住んでいる地域に親しみをもちよう ☆身近な地域を歩いている	○自分の住んでいる地域について知ろう ○地域の活動に参加し友だちを作ろう ☆校区たんけん・町たんけんをする	○住んでいる地域の様々なよさを肌で感じよう ○地域の活動や伝統産業の体験に参加しよう ☆町たんけん・地域の人のインタビューをする ☆地域の様々な職業を調べる ☆スチューデントセンターに参加する	○地域の伝統を知り、地域活動に積極的に参加し進んで行動しよう ○楽しんで行動できる態度を身につけよう ☆地域の活動に参加し、楽しい行動をする ☆地域の歴史や伝統について学ぶ	○地域の活動に積極的に参加し、リーダーシップをとろう ○みんなが楽しんで行動しよう ☆地域を理解し、訪れる人の立場にたって楽しむことを考える ☆伝統や産業について積極的に学習する	
	【集団に適応し共に生きる力】	○園や友だちなどの集団にこたえよう ☆みんな仲よく遊ぶ	○学校の友達や集団と協力しよう ☆学校たんけんをする	○係の仕事に取り組み集団の喜びを知ろう ○友達の良いところや考えを理解しよう ☆友だちと話をしよう ☆学級・係活動に参加する	○集団の中で自分の役割を積極的に把握し行動しよう ○社会に奉仕し役に立つように努めよう ☆学級委員や班長になる ☆縦割り活動で異なる年齢の友だちと楽しく行動する	○集団の大切さを知ると共に、率先して何事にも参加しよう ○社会に対して負う責任や役割を理解しよう ☆集団の中で自らの責任を果たす行動をとる ☆様々な立場の人々との交流を行う ☆リーダーシップを持って行動する	
	【家族と共に生きる力】	○家族の中で自分のできることを見つけてよう ○家族と話しよう ☆家のお手伝いをする	○家族の役に立つ喜びを知ろう ○家族と話そう ☆今日あったことを家族に話す	○家族が協力しあって楽しい家庭を作ろう ○家で自分のできる仕事を責任を持ってやろう ☆家の仕事について聞き取りをする ☆家事や仕事についての話を聞く	○家族の幸せを求め進んで役に立とう ○家族と共に生きていることを自覚しよう ☆自分のできることを次々と実践する ☆生きていることを考える	○よりよい家族形成のために自らが役割を見つけよう ○家族の大切さを自覚しよう ☆将来、どのような家庭や社会を築いていきたいか話しをする	○家庭内でリーダーシップを発揮しよう ○将来、自分が築く家庭を想定して生活設計をつくらう ☆生きがいややりがいがあり、自己を生かせる生き方を家族と共にする
よりよく判断する力	【自らの意思と責任で判断する力】	○遊ぶことを自分で決めよう ☆自分でしたいことは自分で決める	○自分なりの思いを持とう ☆学級の係決めをする	○自分の身の回りのことは自分で決めよう ○今やるべきことを考えて行動しよう ☆班活動での役割を明確にする	○自分の行動について自己決定し実践しよう ☆話し合い活動をする	○自分に必要なことをアドバイスを受けながら自らが判断しよう ○自己の選択の過程や結果には責任が伴うことを理解しよう ☆学級活動・生徒会活動でリーダーとなって参加しその責任をはたす	
	【自らが考え選択する力】	○遊びや遊び方を選ぼう ☆自分でしたい遊びを自分で選ぶ	○自分の好きなもの、大切なものをさがそう ○よいことわるいことを知ろう ☆楽しい学校生活を送るために「みんなできまり」を考える	○理由をもって選択しよう ○ルールやマナーを考慮して行動しよう ☆班活動での役割を明確にするグループ活動をする ☆学級での話し合いをする	○自分にできそうな活動に取り組みよう ○自分なりに納得できる選択しよう ☆学級委員や班長になる ☆スチューデントセンターに参加する	○自己の個性や興味関心に基づき進路を選択しよう ○いろいろな人と相談を基に進路を選択しよう ☆体験を通じて、自己の進路を決定するための課題を選択する ☆キャリアセミナー(生き方探究・チャレンジ学習)に参加する	○多様な選択肢から、進路や学習を主体的に選択しよう ○選択結果を受け入れ責任を果たそう ☆職場や上級学校を見学し進路の具体的なイメージをつくり行動する
	【自らの課題を見つけ解決する力】	○自分でできることを見つけてよう 等 ☆学校で知ることややりたいことを自分で決める	○自分で課題を見つけて、やってみよう	○最後まで自分の役割をやり通そう ○自分の力で課題を解決しようと努力しよう ☆学級での話し合いや課題を見つけて解決する	○夢や希望を持ち、実現を目指して努力しよう ○課題の解決に向けて主体的に取り組もう ☆学級委員や班長になる ☆スチューデントセンターに参加する	○課題の積極的に関わり合い主体的に解決しよう ○よりよい生き方を指す上での課題に気づき、解決に向けて取り組もう ☆学級で、進路選択にかかわる課題をどのように克服するか話し合う ☆フィナンシャルパーク・キャリアセミナーに参加する	○進路希望の実現に向けて課題を設定し、その解決に取り組む ○自分の役割を果たしていく上での様々な課題や解決策を検討する ☆インターンシップでおこなった様々な問題に自らが気づき、解決する
情報を活用する力	【情報を収集し探索する力】	○自分の好きなことや場所を見つけてよう ☆友だちや先生に好きなことや好きな場所の話をしよう	○身近で働く人々の様子に興味・関心を持とう ○必要な本や図鑑をさがそう ☆校区たんけん・町たんけんをして町を調べる ☆学校の図書室に行ってみよう	○いろいろな職業があることの大げさを知ろう ○見学をしたり話を聞いて情報を集めよう ☆地域や自然や社会のよさを調べる ☆図書館に行く	○いろいろな職業のよさを知ろう ○インタビューをして必要な情報を集めよう ☆大人にインタビューをする ☆キャリアセミナーに参加する	○社会の構造の変化に伴って、職業が変化することを理解する ○生き方や進路についての情報を収集・整理し活用する ☆職場を見学し、職業の情報を収集する ☆キャリアセミナー(生き方探究・チャレンジ学習)に参加する	○職業における権利・義務や責任及び職業に就く方法を知ろう ○卒業後の進路について多面的に情報を集め検討しよう ☆インターンシップに参加する ☆キャリアセミナーに参加する ☆情報を積極的に活用しよう
	【職業について理解する力】	○園や家の手伝いをしよう ☆友だちや先生にお手伝いしたことを話そう	○仕事の役割を分担することの大げさを知ろう ☆給食当番での自分の役割を話そう	○係の仕事に積極的に取り組もう ○働くことの楽しさ・大切さを知ろう ☆調べてまとめる方法を活用しよう	○働くことの大切さを知り進んで働こう ○働くことの意味・社会奉仕の喜びを知ろう ☆職場調査をし、まとめたことを発信し交流する ☆スチューデントセンターに参加する	○体験を通して勤労の意義や働く人々の様々な思いを理解しよう ○様々な職業の社会的役割を理解させ、生き方を考えよう ☆学級委員や班長になる ☆スチューデントセンターに参加する ☆生き方探究・チャレンジ学習に参加する ☆キャリアセミナーに参加する	○多様な職業観・勤労観の認識を深めよう ○マナー等の必要性を理解しよう ☆インターンシップに参加する ☆キャリアセミナーに参加する ☆体験を目標と結びつけて実現に向けて具体的に行動する
	【情報技術を活用する力】	○いろいろな道具や物に興味を持とう ☆いろいろな道具や物にさわっている	○コンピュータに興味を持とう ○情報モラルなどに関心を持とう ☆コンピュータをさわっている	○コンピュータを使って調べの方法を知ろう ○情報モラルを身につけよう ☆コンピュータを使ってインターネットから情報を集め自分の考えを伝える	○インターネットを使って必要な情報を集めよう ○コンピュータを使ってプレゼンテーションをしよう ☆事業所や上級学校の情報収集・収集し自分の考えを伝える	○様々な情報機器を活用して調査や資料を収集しよう ○様々な情報機器を使ってプレゼンテーションをしよう ☆事業所や上級学校の情報収集・収集し自分の考えを伝える	○様々な情報機器を活用して自分の考えたことを発信しよう ○様々な職業情報をインターネットを使って調べよう ☆様々な情報をコンピュータなどを使って積極的に収集する ☆HPなどをつくらって自分の考えを発信する
自己理解を将来設計に活かす力	【自分の社会的役割を認識する力】	○自分のことは自分でやってみよう ☆衣服が1人で着る	○自分でできることについて考え、役割の必要性を知ろう ☆自己紹介をする	○お互いの役割・分担の必要性を知ろう ○自分のことは自分でやろう ☆学級行事や学級の係活動を振り返る	○仕事における役割の関連性や変化に気づこう ☆スチューデントセンターに参加する	○職業の社会的役割や意義を理解し生き方を考えよう ○今の生活や学習が将来の生き方にかかわることを理解しよう ☆学級活動・生徒会活動に積極的に参加し、責任を果たす ☆キャリアセミナーに参加する	
	【計画を企画し実行する力】	○約束やまきまりを守ろう ☆ルールを守って遊ぶ	○将来の夢を持とう ☆自分の夢を話す	○将来の夢や希望を持とう ○今やるべきことを整理して取り組もう ☆私の好きなこと、したいことを話そう	○将来のことを考えることの大げさを知ろう ○より高い目標を持ち、くじけないで努力しよう ☆自己目標をつくる	○将来の夢を思い、自分にふさわしい職業と結び付け方向性を持とう ○進路の目標を達成するために努力しよう ☆事業所や上級学校の見学・訪問を計画し、計画にまとめる ☆生き方探究・チャレンジ学習を振り返り、自分の将来を考える	○将来設計、進路計画を見直しその実現に取り組もう ○職業について理解し将来設計、進路計画を立てよう ☆自分の適性を考え目標を設定し、実現のために計画を立て生活に生かす
	【心理的な自己自立を図る力】	○明日の準備をしよう ☆自分の好きなことを話そう	○素直にのびのびと生活しよう ☆自分の目標や夢を話そう	○何事にも集中しよう ○将来の夢を考えよう ☆自己の目標や夢を書き留める	○将来の夢を持とう ☆適度な目標や夢を設定する	○自己実現の目的にあった計画を設定しよう ☆目標を持ち計画実行にあたる ☆自己の夢の実現構想を話そう	○自己実現のために価値観、信念、理想を確立し生活設計を組もう ☆将来設計の立案と社会への移行を考える
	【社会的な自己自立を図る力】	○大きな声で話をしよう ☆友だちや先生に大きな声で話をしよう	○朝、自分ひとりで起きよう ○活動などで必要なものを自分で準備しよう ☆自分の責任で何でもチャレンジする	○先を見通し確に行動しよう ☆スチューデントセンター・フィナンシャルパーク・生き方探究・チャレンジ学習に参加する	○先を見通し確に行動しよう ○自己目標を持とう ☆自己目標をつくる	○自己の意志で取り組み、自立する意欲を向上しよう ○自分なりの価値観、職業観・勤労観を持つ ☆インターンシップに参加する ☆キャリアセミナーに参加する ☆体験を目標と結びつけて実現に向けて具体的に行動する	
	【意欲的に学ぶ力】	○絵本を読もう ○いろいろな話を聞こう ☆自分の好きな絵本をさがす	○勉強をしっかりとやろう ○いろいろな話を聞こう ☆自分から進んで学習する	○自分から進んで学習しよう ○常に疑問を持って行動しよう ☆学習上の課題を見つけ、努力しよう ☆疑問や質問は必ず尋ねる	○将来の職業に関連して、今の学習の必要性や大切さを知ろう ○進路選択を見直し、学習の過程を見直そう ☆将来展望に立った学習内容の見直しをする	○将来設計に基づいて、今取り組むべき学習を理解しよう ○進路選択を見直し、学習の過程を見直そう ☆つまずきを克服し将来展望実現のために学習する	

*この表は、平成17年度京都市教育委員会「指導の重点」、京都市小学校・中学校の道徳・特別活動の指導計画、小学校・中学校・高等学校学習指導要領、キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議「報告書 職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み(例)」等を参考に作成した。